

足三里（True St.36 by Omura, Y.）の最適な刺激量についての報告

風間祐二 Cert.ORT-LAc (1Dan)¹⁾

岩本和久 Cert.ORT-LAc (1Dan)²⁾, 木本貴士²⁾

1) 長野県東洋医学 Bi-Digital O-Ring Test 研究会

2) 大阪府東洋医学 Bi-Digital O-Ring Test 研究会

(Correspondence: TEL: 026-234-0169、FAX : 026-234-0169

e-mail: micky-k@d9.dion.ne.jp)

【はじめに】

薬剤が病変部に取り込まれない、また一度にいくつもの臓器をマッサージする必要のある患者への刺激としてBi-Digital O-Ring Test(OMURA,Y.1977-2007;以下BDORT)によって足三里 (OMURA,Y.1977-2007;以下True ST-36) が、大村恵昭先生により発見された。今回、臨床におけるTrue ST-36の最適刺激量（ドーズ）について報告・考察した。

【方法と対象】

BDORT 異常部検出法・イメージングを行い Selective Drug Uptake Enhancement Method(以下 SDUEM)の必要な条件を満たした年齢・体型・病態の違う男女合わせて10名に対してBDORT評価を行った。

- ① それぞれ刺激量（ドーズ）を検討するために置鍼への150回のプレスの強さと速さを検討する。強さは3段階（接触⇒中間⇒痛いと感じる程度）、速さは3段階（脈の速さを基準）
- ② True ST-36を左右取穴し、効果の差をSDUEMにて検討する。※薬剤はEPA/DHAとCilantroが主であるが病態に対して処方されている薬剤も使用、また置鍼はセイリンのPYONEX1.2mm

【結果】

- ① 体型・年齢・体力・男女と病態により強さ・速さは異なった。それぞれの患者において、強さは中間くらいもしくは痛いと感じるところで、病変部に届きだした。速さは、脈と同じ速さの結果が良好であった。
- ② 利き足への刺激がもっともよかったが、逆の反応も観測できた。
①②より True ST-36 への刺激量は、若干強く感じる圧力で、速さは脈と同じ。また、利き足への刺激が理想であると思われた。（下記グラフ参照）



【考察】

临床上、男女と病態の違いにより左右の True ST-36 の選択がかわったのではと考えた。また、ヘルペスウイルスタイプⅡなどウイルスの感染の病態では健足を取穴したほうがよい結果がえられたことから、最も条件の良い True ST-36 への刺激が必要だと考えた。脈と同じ速さがよかったのは、脳内の Acetylcholine 増加などによる変化も示唆されたが、より多くのエビデンスが必要であると思われた。

【終わりに】

経絡経穴の方向性についても最適刺激量に大きく関わることや、施術者の気 (+プラス) の状態がどう影響するのか、また、灸治療の効果なども対象者を増やして、今後検討し報告したい。

【参考文献】

- 1) 大村恵昭：図説バイ・デジタルオーリングテストの実習.医道の日本社,東京,1986年
- 2) Omura Y.: New simple early diagnostic methods using Omura's "Bi-Digital O-Ring Dysfunction Localization Method" and acupuncture organ representation points, and their applications to the "drug & food compatibility test" for individual organs and to auricular diagnosis of internal organs--part I. Acupunct Electrother Res. 1981;6(4):239-54.
- 3) Omura Y.: "Bi-digital o-ring test molecular identification and localization method" and its application in imaging of internal organs and malignant tumors as well as identification and localization of neurotransmitters and micro-organisms--Part 1. Acupunct Electrother Res. 1986;11(2):65-100.
- 4) Omura Y.: Re-evaluation of the classical acupuncture concept of meridians in Oriental medicine by the new method of detecting meridian-like network connected to internal organs using "Bi-Digital O-Ring Test". Acupunct Electrother Res. 1986;11(3-4):219-31.
- 5) Omura Y.: Meridian-like networks of internal organs, corresponding to traditional Chinese 12 main meridians and their acupuncture points as detected by the "Bi-Digital O-Ring Test imaging method": search for the corresponding internal organ of Western medicine for each meridian--Part I. Acupunct Electrother Res. 1987;12(1):53-70.
- 6) Omura Y, Takeshige C, Shimotsuura Y, Suzuki M.: Imaging of the stomach, and localization of the stomach meridian & its acupuncture points in a human cadaver by the use of the indirect "Bi-Digital O-Ring Test Imaging Technique". Acupunct Electrother Res. 1988;13(4):153-64.
- 7) Omura Y.: Connections found between each meridian (heart, stomach, triple burner, etc.) & organ representation area of corresponding internal organs in each side of the cerebral cortex; release of common neurotransmitters and hormones unique to each meridian and corresponding acupuncture point & internal organ after acupuncture, electrical stimulation, mechanical stimulation (including shiatsu), soft laser stimulation or QI Gong. Acupunct Electrother Res. 1989;14(2):155-86. Review.
- 8) Omura Y, Losco M.: Simple non-invasive mapping of pain pathways in living humans, and the effects of acute non-invasively induced pain on substance P, oncogen C-fos Ab1, oncogen C-fos Ab2, dopamine, and acetylcholine. Acupunct Electrother Res. 1992 Oct-Dec;17(4):291-300.
- 9) 北出利勝：新しい鍼灸診療.医歯薬出版,東京,2006年

男女における経絡経穴の方向性と足三里（True St.36 by Omura, Y.）の刺激についての報告

木本貴士¹⁾、岩本和久 Cert.ORT-LAc (1 Dan)¹⁾

1) 大阪府東洋医学 Bi-Digital O-Ring Test 研究会

風間祐二 Cert.ORT-LAc (1 Dan)²⁾

2) 長野県東洋医学 Bi-Digital O-Ring Test 研究会

(Correspondence: TEL: 06-6776-1988, FAX: 06-6776-8815,

e-mail: osakaort@kuusin.com)

【目的】

日々の臨床において、経絡経穴を観察しているとその方向性に男女の違いがあると思われた。また、治療ポイントに鍼を刺入して左右に回旋すると異常物質の増減する現象が観察された。Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y. 1977-2007; 以下 BDORT) を用いて、胃経を使った身体各部での経絡経穴の方向性と、Selective Drug Uptake Enhancement Method (以下 SDUEM) でよく使われる足三里穴 (True ST.36) における刺激の効果を検討したので報告する。

【方法】

- ① 男女それぞれに BDORT イメージング法を使って胃のプレパラートで、下肢、下腹部、上腹部、胸部、頸部にある胃の経穴を左右一穴ずつ (ST.9、ST.15、ST.25、ST.29、ST.36) プロットし、それにつながる経絡もイメージングした。
- ② 検査棒を経絡に沿って BDORT で方向性を確かめた。
- ③ 同様に、経穴の輪郭部で方向性を確かめた。
- ④ 次に、BDORT 異常部検出法で身体の最大異常部を特定した。
- ⑤ 左右の足三里穴 (True ST.36) のグレーディングをして、回旋刺激を加え最大異常部での反応を Virtual Acupuncture Effect Test で評価した。

【結果】

- ① 胃経における経絡経穴の方向性は、左右で方向性が逆転した。男性と女性でも逆転していた。
- ② 経穴の方向性も左右、および男女で逆転していた。
- ③ 足三里穴への鍼の刺入刺激は、男女とも経穴の回転方向に沿った回旋刺激が最もよい効果を示した。
- ④ 刺入した鍼を回旋し過ぎると逆に (+) グレードから (-) グレードに転じた。

【考察】

一般に経絡の方向性は左右関係なく同じ方向性を持つものと理解されている。しかしながら、今回の試験の結果、経絡経穴の方向性の違いは、経絡が左右交差しているかもしれないという考えに思い至る。また、経絡経穴へは方向性を考慮した刺激方法が必要になると思われる。この経穴での回旋刺激により、経絡の流れを調整していると推測される。

【結語】

今回、臨床での観察から思い至ったことを試験してみた。今後、陰経と陽経の比較や経絡の全体をイメージングして今後の課題として検討していく必要があるだろう。また、BDORT 協会では SDUEM として足三里穴 True ST.36 への刺激 (プレス・ニー

ドル、150回のプレス)を指導している。臨床中におけるより効果あるSDUEMを模索して今回の試験を報告した。経穴での回旋刺激における異常物質等の変化は、経穴の方向性と関連して、鍼灸理論の補瀉についても考えを拡げていけるのではないかと思われた。

【参照】

- 1) Omura Y: 『The practice of Bi-Digital O-Ring Test』 . Ido No Nihonsha, Tokyo, 1986
- 2) Omura Y.: New simple early diagnostic methods using Omura's "Bi-Digital O-Ring Dysfunction Localization Method" and acupuncture organ representation points, and their applications to the "drug & food compatibility test" for individual organs and to auricular diagnosis of internal organs--part I. Acupunct Electrother Res. 1981;6(4):239-54.
- 3) Omura Y. : "Bi-digital o-ring test molecular identification and localization method" and its application in imaging of internal organs and malignant tumors as well as identification and localization of neurotransmitters and micro-organisms--Part 1. Acupunct Electrother Res. 1986;11(2):65-100.
- 4) Omura Y.: Re-evaluation of the classical acupuncture concept of meridians in Oriental medicine by the new method of detecting meridian-like network connected to internal organs using "Bi-Digital O-Ring Test".
Acupunct Electrother Res. 1986; 11(3-4):219-31.
- 5) Omura Y. : Meridian-like networks of internal organs, corresponding to traditional Chinese 12 main meridians and their acupuncture points as detected by the "Bi-Digital O-Ring Test imaging method": search for the corresponding internal organ of Western medicine for each meridian--Part I. Acupunct Electrother Res. 1987;12(1):53-70.
- 6) Omura Y, Takeshige C, Shimotsuura Y, Suzuki M.: Imaging of the stomach, and localization of the stomach meridian & its acupuncture points in a human cadaver by the use of the indirect "Bi-Digital O-Ring Test Imaging Technique". Acupunct Electrother Res. 1988;13(4):153-64.
- 7) Omura Y.: Connections found between each meridian (heart, stomach, triple burner, etc.)& organ representation area of corresponding internal organs in each side of the cerebral cortex; release of common neurotransmitters and hormones unique to each meridian and corresponding acupuncture point & internal organ after acupuncture, electrical stimulation, mechanical stimulation (including shiatsu), soft laser stimulation or QI Gong. Acupunct Electrother Res. 1989;14(2):155-86.Review.
- 8) Omura Y, Losco M.: Simple non-invasive mapping of pain pathways in living humans, and the effects of acute non-invasively induced pain on Substance P, Oncogen C-fos Ab1, Oncogen C-fos Ab2, dopamine, and acetylcholine. Acupunct Electrother Res. 1992 Oct-Dec; 17(4):291-300.
- 9) Kitade T. : 『新しい鍼灸診療』 .Ishiyaku Publishers,Inc., Tokyo, 2006

スポーツのパフォーマンスの向上に役立つ円皮鍼（Sham 鍼）の効果

妻木 充法

東京スポーツ・レクリエーション専門学校

(Correspondence: e-mail: m-tsumaki@r3.dion.ne.jp)

(研究テーマ)

ユースサッカー選手に対する針治療（皮内鍼 Press Needle）の効果の検討

(研究目的)

針治療が、①コンディション調整、②疲労回復の促進、③傷害の治癒促進に有効であることは、スポーツ界では認知されている。また、記録の向上に役立つことも期待されている。しかし、その評価は、自覚症状の改善によることが多く客観的な報告は少ない。今回パフォーマンスの向上に影響を与えると考えられる指標をバイ・デジタルオーリングテスト(OMURA, Y.1977-2007)で検出した部位を皮内針（Sham 鍼）で刺激した影響を測定、検討した。

(対象)

ユースレベルのサッカー選手 15 名（年齢 15 歳～18 歳 平均 16±0.65 歳）

(方法)

針刺激として円皮鍼（Sham 鍼）を手、足、腹部に 2 箇所ずつ、計 6 箇所（※）に刺入固定して、その前後と 1 日後、2 日後、1 週間後について以下の項目を測定した。

1 関節可動域 (ROM)

股関節(hip joint)、肩関節(shoulder joint)の可動域について測定した。

2 筋の柔軟性(flexibility)

総合的な柔軟性の指標として FFD(floor-finger distance)、大腿後面の柔軟性の指標として S L R(straight leg rising)、大腿前面の柔軟性の指標として踵殿距離 HHD (heel-hip distance) を測定した。

3 静的アライメント(static alignment)

片足立ち(one leg standing)を正面、側面から撮影し評価した。

4 筋力(muscle strength)

大腿 (quadriceps and hamstrings muscle) の筋力を等速度運動 (isokinetic contraction) (角速度(Angular velocity)300°、180°、60°) で測定した。

※ 刺激部位の選択方法と刺激方法は、バイ・デジタルオーリングテストにより、指の筋力のもっとも減少する部位を腹部 2 箇所、前腕 2 箇所、下腿 2 箇所計 6 箇所として、測定前に貼付した針の上を 30 回軽く刺激する。針はセイリン製皮内針パイオネックスとした。(直径 0.2mm×全長 0.6mm)

(結果)

1. 関節可動域

肩関節可動域においては水平屈曲、3RD 内旋を除き有意に増大した。

股関節可動域においては、すべての項目で有意に増大した。

2. 柔軟性

SLR をのぞいて有意な差が認められた。

3. 筋力

各角速度での Peak Torque を比較した。

角速度 60°/sec において伸展では有意に減少したが、屈曲では有意差は認められな

った。

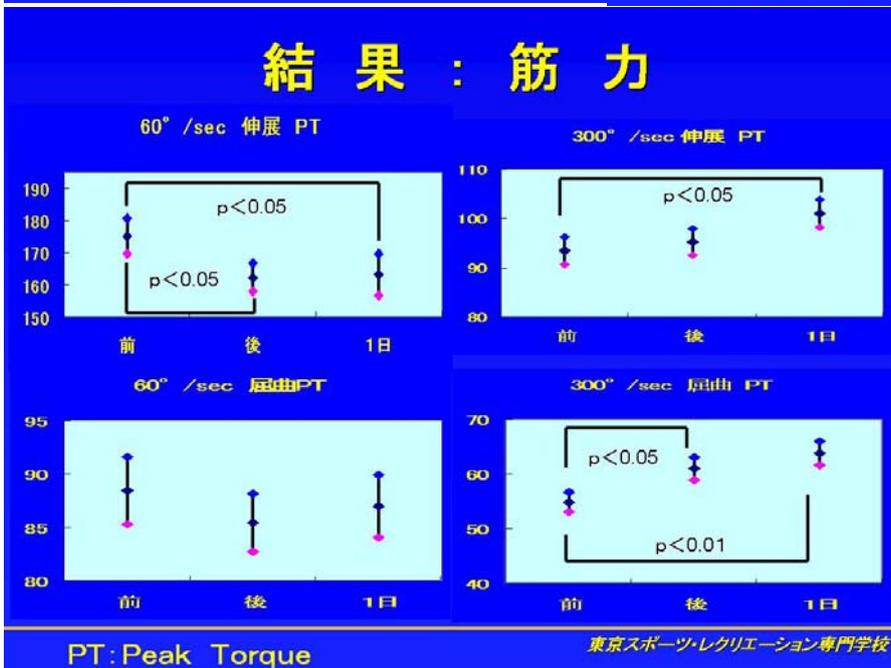
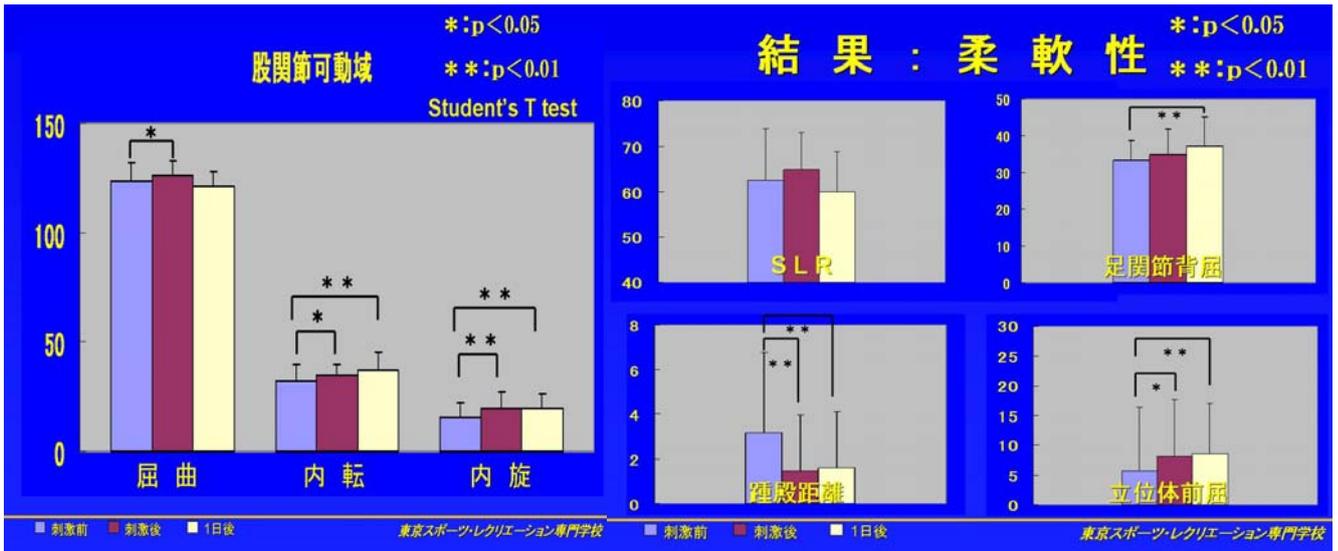
速度角速度 180°/sec において有意差は認められなかった。

角速度 300°/sec においては、伸展で翌日、屈曲では直後より有意に増大した。

4. 立位アライメント

今回は参考に撮影したため数値化していないが、多くの選手のボディーイメージの低下が伺われた。刺激により多少改善する傾向にあったが、十分ではないように思えた。

(考察) 高校サッカー選手にバイデジタルオーリングテストを用いて、経穴を検出して、鍼療法を行う手法は、スポーツのパフォーマンス向上に効果的である。



Bi-Digital O-Ring Test を用いたハーブ療法についての考察

増井利次 Cert. ORT-Lic. Ac (1 Dan)

大阪府東洋医学バイ・デジタルオーリングテスト研究会

紀元前エジプト王朝の時代にはすでに存在したと伝えられる『ハーブ』は世界各地で薬草や香辛料として利用されてきた。近年では社会生活上のストレスを緩和する目的でハーブティーやアロマセラピーとして使用されることも多く見かけられる。この度は Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y. 1977-2007; 以下 BDORT) を用いてドライハーブ、ハーブの精油、及び Bach flower remedies の有用性を検討したので報告する。

BDORT を応用したハーブ療法について

ハーブの作用機序は研究者の間でも解明されていないものが多く BDORT はハーブを臨床に用いる際の安全性を高めるためにも非常に有用であると考えられる。その用法は一般の医薬品を用いた BDORT の手法と同様に扱える。例えば Virtual Drug Effect Test⁽¹⁾ として疾患の性質の解明や、疾患に対する有効性の予測に一部は使用可能である。治療に用いる際は、ティー、煎剤、Tincture、製品化されたカプセル、タブレットなどを服用する。クレイなどと混合してハップ剤として貼り付ける。ハーブから抽出した精油をオリーブオイルなどで希釈してマッサージを施す。温水に滴下して揮発成分を吸引するなどの方法がある。これらはいずれも BDORT にて事前にチェックした上で施行することにより安全性と治療効果が向上する。

臨床での応用

症例 1 N.T 女性 32 歳 主訴 膝関節痛

平成 19 年 1 月膝関節痛にて住居近くの整形外科受診。膝関節炎と軽度の関節水腫と診断され消炎鎮痛剤の投与を受けた。約 1 w 後当院受診。BDORT にて膝蓋骨直上および膝関節内側裂隙に Substance P 20ng (BDORT unit) の反応を得た。その後ホットパック、低周波療法、灸、マッサージなどを 4 週間に計 10 回試みるも著しい改善は見られなかった。BDORT にてハーブを選択した結果ペパーミントのドライリーフが SP に有効との反応を得た。さらにゼラニウム、ユーカリの精油に反応を示した。しかしペパーミントの精油に対する反応はネガティブであった。ゼラニウムとユーカリのブレンドオイルにて患部をマッサージし、自宅にて患者にペパーミントティー 2 回/日の服用を奨励した。5 日後、膝関節の疼痛が軽減、関節水腫も消失した。腰痛を訴えたので BDORT にてティートリーの精油とペパーミントのドライリーフが適合し施術。その 6 日後、膝関節および腰部の疼痛消失。SP の反応も消失し治癒として治療終了した。

症例 2 K.K 女性 41 歳 主訴 頸部痛

4 年前より頸部痛を主訴として来院されているこの女性はその長期にわたる治療のなかでさまざまな愁訴を訴えてこられた。中でも強い症状を著して来られたのはパニック障害、躁鬱、子宮筋腫などであった。BDORT においては頭部、頸部、胸部、背部、腰部に Substance P 20 ng 以上、海馬 Hg10mg、胸部 Mycobacterium Tuberculosis 100ng、

下腹部 Thromboxane B2 400ng 以上、口角、頸部、頭部に HSV- I 100ng、左章門付近に HSV- II 100ng (いずれも BDORTunit)等が検出された。これまで BDORT を用いて鍼灸治療、漢方医による漢方治療などを施すも著明な改善は認められなかった。昨年 12 月 BDORT にてポジティブな反応をしたジャーマンカモマイル、ティートリー、ペパーミントの精油と Bach flower remedies のワイルドローズを用いてマッサージを試みた。その後、週に 1 回程度の来院時に BDORT に基づいてベルガモット、ローズマリー、ゼラニウムでのオイルマッサージ。自宅にてエキナセア、ジュニパーベリーのハーブティー。アグリモニー、ヘザー、レッドチェストナット、ホワイトチェストナットの remedies を服用。Selective drug uptake enhancement method (OMURA, Y. 1994) として第三指尖のピンチングを施した。ハーブ治療を開始して約 3 ヶ月経過後、Mycobacterium Tuberculosis 100ng→50ng。HSV- II 100ng→1 ng 以下。Hg10mg→2 mg。Thromboxane B2 400ng→300ng(いずれも BDORT unit)となっていた。自覚していた各部の疼痛は消失した。子宮筋腫に関連する諸症状もなし。さらに精神科医の指導のもとでパキシルを 10mg から 5mg へと半減させたが神経的な問題もなく、今までになく安定しているとのことである。

他に BDORT にて得られたポジティブな反応は、上腕骨内側上顆炎（投球肘）にベルガモット。CMV 感染を伴う糖尿病にアグリモニー。前立腺肥大にソーパルメット。慢性気管支喘息にユーカリ、ローズマリーのリキッド。Thrbx B2, HSV- I, Chlamidia Pneumoniae, Hg などが高値の運動器系機能障害にサンダルウッド、ユーカリ、セージ。胸部に Oncogene C-fos Ab2 CA15-3 の反応が高値であった女性にエルダーフラワー。帯状疱疹にペパーミントなどが反応を示した。ペパーミントのドライリーフは上記の疾患すべてにポジティブな反応をした。

結語

最近の研究で BDORT を用いればハーブは補助的ではあるが日々の診療に有効な手段となることが判った。鍼灸を併用することにより相乗効果を得ることも確認している。また、キャンセル現象を引き起こすハーブの組み合わせの頻度が高いという印象を受けた。ハーブの作用機序はマイルドで副作用も少ないとされている。マイルドではあるが効果がないわけではなくゆっくりとした確実な効果を発揮するように考えられる。しかし Hypericum perforatum (St. John's wort) などのように併用するとエイズやその他の疾患に用いられる特定の医薬品の効力を損なうとの記載もある。また Ephedra sinica (麻黄) などは大量摂取すると高血圧、心拍亢進などを引き起こし死亡した例も報告されている。このように医師の監督下において使用すべきものとされるハーブもあり、健康ブームの今日ではあるがその安全性には細心の注意を払うことが重要と考える。

1) Bi-Digital O-Ring Test Seminar Text Spring'2006 Page105

著 日本バイ・デジタルOリングテスト協会

連絡先：増井鍼灸整骨院 〒577-0803 大阪府東大阪市下小阪 2-7-16

Tel:06-6730-2512 e-mail:wsxmm099@yahoo.co.jp

平面状照射 LED 及び BDORT 用低出力レーザー一体型走査装置 を用いた臨床応用

川嶋洋士 **Cert. ORT-LAc. (1 Dan)**¹⁾, 大城 素 Msc., F.I.C.A.E. (Hon.)¹⁾, 竹内民子 N.S.²⁾, 下津浦
康裕 M.D., F.I.C.A.E., Cert. ORT-MD (6 Dan)^{1),2)}, 大頭仁 (Dr. Techn. ウィーン工大)³⁾, 大村
恵昭 M.D., F.I.C.A.E., F.A.C.A., F.A.A.I.M., F.R.S.M.⁴⁾

1) ORT 生命科学研究所、久留米市

2) 下津浦内科医院、久留米市

3) 早稲田大学・名誉教授；ネオアーク(株)レーザ医用研究所長

4) Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; Adjunct Prof., Dept. of
Community & Preventive Medicine, New York Medical College; President, Int'l College of
Acupuncture & Electrotherapeutics; Prof., Dept. of Non-Orthodox Medicine, Ukrainian
National Kiev Medical University

(Correspondence : FAX: +81-942-36-1961, e-mail: seimei@bdort.net)

ABSTRACT

バイ・デジタルオーリングテスト (BDORT) での異常部診断及びマッピングは、初期の段階では、伝導体 (真鍮等) を使い、異常部をマッピングしていく方法であった。また、レーザー光の特徴を生かして、オーリングテストの創始者の大村恵昭が 1980 年代半ばに、レーザー光で **bi-directional** に物質の情報が伝わることを発見してから、我々は、レーザー光を用いた診察を行っている (下津浦が使用し、大村に報告した)。初期は、レーザー光を点であてて、情報をひろっていた。癌のスクリーニングでは、右手、左手、右足大腿部、左足大腿部、天突(CV22)、臆中 (CV17)、神闕 (CV8)、Anus (右手、左手、天突で異常の場合は、頭部も考慮して、両耳も調べる) にレーザー光を当てて、グレーディングを行い、異常な箇所を更に、詳しく調べる。それで、異常反応部を推定して、アルミホイルを患者の体表面に密着させ、その異常反応部をアルミホイルを半分に折りながら面積を狭くしていき、最終的に金属棒を使って反応部のアウトラインを正確にマッピングするために、診察に時間がかかっていた。1999 年頃より、点走査からライン型レーザー (下津浦発案、大城試作) を用いて縦横 (X,Y-axis) の線状走査を行うようにして、その交点から最大の異常部の位置を決定している。例えば、癌のスクリーニングの場合は、RCS として Integrin $\alpha_5\beta_1$: 60ng を持ってスポットレーザーで、グレーディングした後、患者の体表上に、ライン型レーザーで X-axis、Y-axis に異常反応のある線を引く。次に、X-axis、Y-axis の線の交点を Integrin $\alpha_5\beta_1$: 60ng を持ってスポットレーザーで照射しながら、異常か正常かを調べていく。そして、異常な交点は、さらに Integrin $\alpha_5\beta_1$: 350ng から増減、Mercury : 350mg から増減、Acetylcholine : 1pg から増減、8-OH-dG : 70ng から増減、Folic Acid: 1zg から増減、正常と異常部の Telomere (TTAGGG) 及び DHEA を調べる。更に、癌の組織標本を用いて、どの癌の組織標本と共鳴するかを調べる。最終的には、血液検査、X 線、CT, MRI, PET Scan, 内視鏡検査等で、精査する。この線走査により、診察時間は短くなった。

ORT 生命科学研究所のスタッフは、線状操作から、面で異常部を検出するように工夫していった。最初は、レーザー光をレンズを通すことにより、円形状に拡大することから始めた。我々の発案 (下津浦発案、川嶋試作) により、長方形に高輝度の赤

色 LED 光を平面状に照射することにより、異常部を検出する装置を試作した。図 1，図 2 の長方形 LED ライトとライン型、点状型レーザーがスイッチで切り替えられるようにしてある。長方形の縦と横の比は、1 : 1.618 の黄金比にした。



図 1:長方形 LED ライト

図 2:ライン型レーザー

図 3:点状レーザー

長方形 LED ライトにより、広く面状に走査しながら、異常部を見つけ出す。次に、患者の体表面への照射の面積を変えることにより（患者の体表面からの距離をとって広い異常部があったとして、長方形 LED ライトを次第に、患者の体表面に近づけて、異常反応部を狭くしていく、また、黄金比になっていることを利用して、異常反応のある長方形を小さくしていく）、異常反応部を短い時間で見つけていく。更に、ライン型レーザーと一体となっていることにより、狭めた異常反応部で X-axis, Y-axis Scanning を行うことで、異常反応部の中心部（交点）をすぐに求めて、各種パラメーターを調べることが短時間でできるようになり、日常の診療で診察時間の短縮化ができるようになった。是非、諸先生方の追試及び臨床応用を御願いしたい。

参考文献：

- 1) 「Electro-magnetic resonance phenomenon as a possible mechanism related to the "bi-digital o-ring test molecular identification and localization method".」 Omura Y. Acupunct Electrother Res. 1986;11(2):127-45.
- 2) 「Bi-directional transmission of molecular information by photon or electron beams passing in the close vicinity of specific molecules, and its clinical and basic research applications: 1) Diagnosis of humans or animal patients without any direct contact; 2) Light microscopic and electron microscopic localization of neuro-transmitters, heavy metals, Oncogen C-fos (AB2), etc. of intracellular fine structures of normal and abnormal single cells using light or electro-microscopic indirect Bi-Digital O-Ring Test.」 Omura Y. et al. Acupunct Electrother Res. 1992;17(1):29-46.
- 3) 図説バイ・デジタルオーリングテストの実習」大村恵昭著、医道の日本社、1986

日本の伝統医学の将来 ～がん予防について～

齋藤 隆 M.D, Ph .D, Cert. ORT-MD (1 Dan)、齋藤 竜太郎、 齋藤 涼二

東西自然医学グループ 東京 日本

(Correspondence : e-mail: saito@706.jp, FAX: 048-858-8381)

日本の伝統医学では 気 血 水 の流れが、スムーズであれば 健康である。と定義されている。もしそれが阻害されているなら病気である。

血 水 は目でみることができます。しかし、気の流れは目でみることができません。そのため気の流れが阻害されているのを発見するのが困難になります。

しかし、波動の方法だけがそれをキャチできます。

日本の波動の方法には3つの潮流があります。

1) BDORT (バイデジタルオーリングテスト) 日本 大村恵昭 (1977～)

2) 気功 (宇宙エネルギー) 日本 矢山利彦 (1986～)

3) バイオ レゾナンス ドイツ ポール シュミット (?)

本日の主なテーマは BDORT (バイデジタルオーリングテスト) です。

現在の癌の検査は目で見えるものが多く、診断が比較的容易です。しかし、最小の限界は5～6 mmです。5～6 mm以下になると腫瘍が見つかりません。

BDORT ではナノ (10^{-9}) からピコ (10^{-12}) までの微小なものまでも測定できます。この方法は人の訓練だけで、高額な機器を必要としません

腫瘍だけでなく現代の技術で測定できない微小なものも測定できます。

波動は将来の注目すべき方法論なのです。

女性ホルモンなどへの注意

広部千恵子 Ph.D., Cert. ORT-Pharm (2 Dan)

清泉女子大学人文科学教授、東京

(Correspondence: hirobe@seisen-u.ac.jp)

エストロゲンとプロゲステロンは、女性の性周期に大きく関わっている。今回、プロゲステロンと β -エストラジオールのスライドを各濃度につくり、女性で月経痛や筋腫などを訴えるグループと全く月経困難を伴わないグループに分けて卵巣での値を調査してみた。

(結果) 健康な女性のグループでは、 β -エストラジオールは、7-8 mg の間で、プロゲステロンは7 mg 位であったが、生理痛などを訴えるグループでは、プロゲステロンの値はおよそ 0.7mg 程度で、 β -エストラジオールも 6 mg 程度か、逆に 13 mg と過剰になっていた。また、通常の血液検査で見られるような生理周期に基づくホルモンの変化はあまり観察されなかった。このプロゲステロン過少症の人にヴィンテージノニジュースを 20 ml から 30 ml 投与すると生理痛は、かなり早い段階で改善された。同様の結果はセイヨウニンジンボク抽出物、マリアアザミ抽出物、スターアニス抽出物の混合液でもやや時間はかかるが得られている。

(考察) 一般に PMS 症状とはエストロゲン過多の状態を言い、生理痛、浮腫み、などの諸症状を呈する。現在婦人科では主にホルモン療法が行われているが、エストロゲン過多の状態にさらにエストロゲン様物質を与えれば、過多状態になるし、エストロゲン過少状態に与えてもコントロールが非常に難しい。かつ自然でないプロゲステロン様作用のものを併用することも行われているが、これがプロゲステロンを増やすことにはつながらない。今回使用したヴィンテージノニ、またはゴールドブレンドを使用するとプロゲステロンは増加し、エストロゲンは過剰なものも過剰なものも平常値になるので、O-リングテストを使用して量を決定すれば、好ましい結果が得られることが分かった。

但し、レモン系のハーブやかんきつ類などは、プロゲステロンを低下するようにはたらくので、摂取をしない方がよい。また、ノニを飲用するときには、納豆は禁忌であるし、チーズ、ヨーグルト、甘酒などの発酵食品も加えて摂取しない方がよい。また、プロゲステロン 0.8mg の人にノニ 20ml を与えると 6.4mg になるが、ブント半分を食べると 0.2mg に、納豆 1 パックを食べると 0.1mg になった。

アディポネクチン 100ng の人にノニ 20ml を与えると 400 ng になるが、この人がブント半分を食べると 10ng に、納豆 1 パックを食べると 100p になる。

ドーパミン (黒質で) $10^{-13}g$ の人がノニ 20ml で 90ng になるが、ブント半分で 10pg に、納豆 1 パックで $10^{-19}g$ になる。

アセチルコリン 10pg の人がノニ 20ml を服用すると 2400 μ g になるが、この時ブント半分を食べれば 450ng に、納豆 1 パックを食べれば 100ng になってしまう。

主に注意を要する食べ物を表示する。この食材を摂取すると正常な人でも一時的に以下のホルモン類は低下する。

	Progesterone	Adiponectin	Dopamine	Acetylcholine
摂取前	7mg (単位 mg)	400ng がpgの単位	250ng がpgの単位	4000μg がpgの単位
ヨーグルト	0.2	1	0.001	1
チーズ一枚	0.3	1	0.01	10
納豆	0.01	10	0.1	1
テンペ半分	0.2	10	100	10000
甘酒 30g	0.4	10	100	10
酒粕 20g	0.5	1	1	1
ブント半	0.2	0.01	0.01	0.01
レモン半	0.2	0.001	1	1
ミカン1	0.1	0.01	0.01	10
グレープフルーツ 1	0.3	0.01	0.01	10
シークワーサ 50ml	0.5	0.01	0.01	1
金柑 3 個	0.2	0.01	0.001	0.1
ヤマノイモ 50g	0.7	0.01	0.01	100
ディフェ 20g	0.8	10 ⁻⁶	10 ⁻¹¹	10 ⁻⁵ g
マヨネーズ 20g	4	20000	10	0.1
マーガリン 5g	0.8	100	1	0.01
レモングラス	0.3	20	10 ⁻¹³	10 ⁻⁴
レモンバーベナ	0.2	10	10 ⁻¹⁷	10 ⁻¹⁰
レモンバーム	0.2	40	10 ⁻¹⁶	10 ⁻⁹
レモンピール	0.2	100	10 ⁻¹⁹	10 ⁻¹¹
レモンマートル	0.2	20	10 ⁻¹⁷	10 ⁻¹³

(表中のハーブは 1g をお茶として使用した。また、1pg と 1fg の間は検査していないので、1pg は、1fg 以上 1pg 以下を意味する)

市販ユーカリ茶による金属排出作用

赤堀英明 M.D., Cert. ORT-MD (1 Dan)

あさひ総合病院 総合診療科、富山県

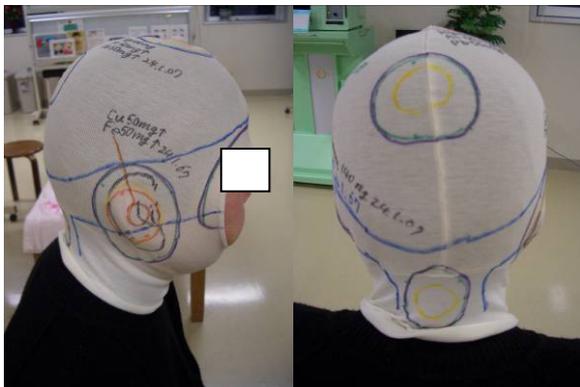
(Correspondence: FAX : 0765-82-0401, e-mail: hideaki_akahori2005@ybb.ne.jp)

以前マスコミでも取りあげられたユーカリ茶の服用により、頭部の金属排泄がスムーズになされ、頭痛、フラツキ、めまい等の症状が改善した症例がありましたのでご報告いたします。

症例 1

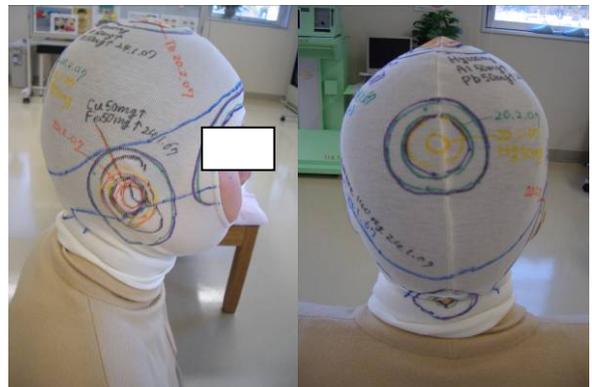
70歳女性。平成18年2月にバイク運転中に4Mの高さより転落、左大腿骨骨折。その後神経因性膀胱となる。3月頃よりメマイ、フラツキが出現。頭部CT、MRIにて多発性陳旧性の小さい脳梗塞以外、特に異常所見は認めず。耳鼻科的には耳性めまいが疑われたが治療するも改善せず。

バイ・デジタルオーリングテスト (Omura, Y. 1977-2007; 以下 BDORT) 診察では頭部に数箇所、HSV1,2、CMV、Thromboxane B2、クラミジアニューモニア、水銀(50mg BDORT Units 以上)等の集積がみとめられた。漢方薬ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒(TJ25)、ツムラ潤腸湯エキス顆粒(TJ51)、エパデールとユーカリ茶の服用により水銀は100fgまで減少し、フラツキ、メマイの症状もほとんど消失した。



1月24日

Hg、Pb、Al、Fe、Cu 50mg 以上



2月20日

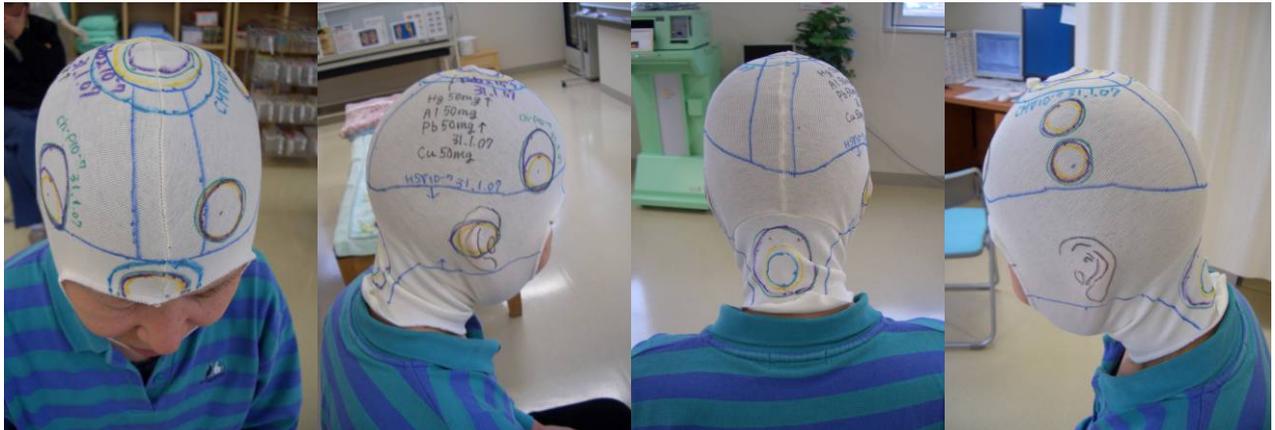
100fg

症例 2

57歳女性。子供のときより不眠、頭痛あり。頭痛薬や睡眠薬はその都度愛用している。睡眠薬を服用しても午前2時ごろには覚醒しあまり眠れない。

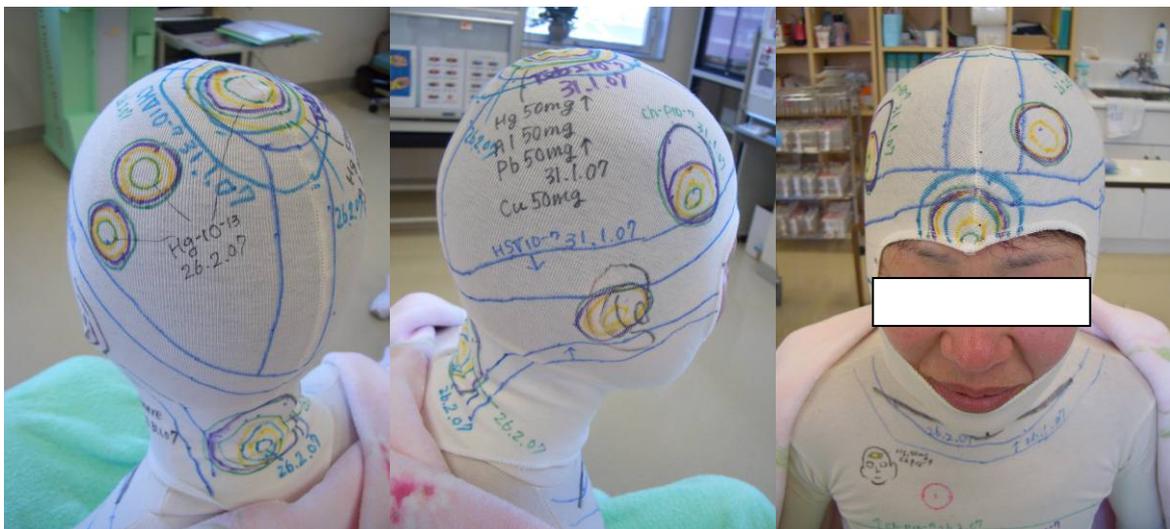
BDORT 診察では頭部に数箇所 HSV1,2、CMV、Thromboxane B2、クラミジアニューモニア、Hg、Pb、Cu、Fe、Al(各々50mgBDORT Units 以上)の集積が認められた。

漢方薬ツムラ帰脾湯エキス顆粒(TJ65)、エパデール、Substance Z (I-10)とユーカリ茶の服用によりそれらの金属濃度が100fgにまで減少し、薬を飲まなくても眠れるようになった。



なった。

1月31日 Hg、Pb、Al、Cu 50mg 以上



2月26日 100fg

考察：頭部に重金属の蓄積がある場合、それらを排泄するには Selective Drug Uptake Enhancement Method を必要とすることが大切でしたが、ユーカリ茶は飲むだけで比較的早く(1ヶ月前後で)排泄されることがわかった(例外はあります)。また頭部の金属排泄に伴い、頭部の循環障害やHSV1,2感染、CMV感染、クラミジア感染も改善され、メマイ、フラツキ、疼痛等の症状も早く改善されることがわかった。

BDORT で (-) の衣類の本体と (-) を (+) に変える試み

前田 華郎 MD., Ph.D., Cert ORT-MD(3Dan)

前東京女子医大形成外科教授；アドバンス・クリニック横浜院長、神奈川

(Correspondence: TEL : +81-45-328-4166 , FAX:+81-45-328-4133,

e-mail: karomaeda@pop21.odn.ne.jp)

I 目的：

大村先生がよく Test される Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y.1977-2007; 以下 BDORT) で (+) の布地と (-) の布地について、その本質の違いを調べ (-) の布地を (+) にするいくつかの Test を行い、それによってその本質にどのような変化が起きたかを検討した。

II 方法及び材料：

1. 用いた布地：キュプラ（化繊）、綿、ポリエステル、絹、レーヨン、アセテート、ウール、混合など 29 種類、色（紺、青、黒、白、赤、グレイ、黄、柄物）は各種
2. 検査方法：
 - a) BDORT（間接法）
 - b) RCS : ThromboxaneB2, Telomere, Chlamydia trachomatis, Borrelia burgdorferi.
 - c) (-) を (+) に変えるために試みた材料
 - i) アルコールガス ii) ワサビガス
 - iii) 飽和食塩水 iv) プロポリス V) アイロン
 - vi) 電子レンジ

II 結果：

- i) BDORT で (-6) の布地(13 点)はすべて上記の RCS は $1 \mu\text{g}$ (BDORT Units) を示し、(+3) の布地 16 種類はすべて 1 ng 以下であった。
- ii) (-6) の布地の一部を 24 時間アルコールガス、ワサビガス、プロポリスガスに晒し飽和食塩水にも浸したが、(-6) から (+3) に変化した布地はワサビガスであった。一方 10 秒間アイロンをかけた後 (-6) から (+3) に変化した布地は、すべて 2~3 日で再び戻った。一方電子レンジに 5 分間入れた後 (-6) の布地 13 種類はすべて (+3) に変化した。内 6 種類が 8 日目で (-6) に戻ったので、これらを再び 5 分間電子レンジで照射した。その後、これら電子レンジで照射した布地 13 点は 2 ヶ月経っても (+3) を保っているが、上記の RCS は処理前と全く変化を示さず、すべて $1 \mu\text{g}^{-1}$ を示した。

III 結語：

- 1) BDORT で (-) の布地は ThromboxaneB2, Telomere, Chlamydia trachomatis, Borrelia burgdorferi が高いが、初めから (+) の布地ではいずれも 1 ng 以下で

あった。

- 2) 電子レンジで5分又は後に5分追加すれば(−6)の布地は(+3)に変化し現在迄2ヵ月不変であるが、ThromboxaneB2, Telomere, Chlamydia trachomatis, Borrelia burgdorferi は高い値のまま変わらない。
- 3) 布地の素材による特徴は見られなかった。
- 4) 染色による特徴も見られなかった。

IV結論：

BDORT で(−6)の布地が(+3)に変化しても ThromboxaneB2, Telomere, Chlamydia trachomatis, Borrelia burgdorferi が高い値を示しているが、衣類の良し悪しを決めるのは、BDORT の(+)(−)で決めるべきか、これらのRCSなどで決めるべきか今後の研究に委ねる。

太陽エネルギー貯蔵紙(originally discovered by Dr. Omura)の作成

とその臨床効果の検討

出口一樹 M.D., Cert. ORT-MD (3 Dan)

岐阜県 関保健所所長 日本脳神経外科学会専門医、
日本バイ・デジタルO-リングテスト協会認定医 (3段)

(Correspondence: e-mail: iqqi@mac.com)

目的：太陽エネルギー貯蔵紙とその有効性に関する論文が 2004 年に報告された¹⁾。それによれば日の出・日の入り時の太陽には Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y. 1977-2007; 以下 BDORT)で極めて陽性を示す時間帯が有り、その時に紙を太陽に曝すと、従来から BDORT 医療で使用されてきた気功エネルギー紙²⁾よりも強力な臨床効果を有するエネルギー貯蔵紙が作成できるとしている。2006 年にはそれによる脳腫瘍、中皮腫などのアスベストが関連する疾患におけるアスベストの排出作用が報告された³⁾。しかし、その作成方法について詳細な記載が無く、不明な点が多いので実際に太陽エネルギー貯蔵紙の作成を試み、その臨床的効果を検討した。

材料と方法：太陽エネルギー貯蔵紙の作成は、2005 年 4 月から 6 月の間で、晴れて夕日があっけりと観察できる日を選び、合計 3 回行った。場所は岐阜市内(35°25'N, 136°46'E)で、夕日が人工構造物に遮られずに山に沈んでいくことが観察できる 6 階建てビルの屋上とした。紙はライフ社製 Life 情報カード (75mmx125mm) を用いた。

上記ビルの屋上でガイガーカウンター、ガウスメーターなどで放射能・電磁場が低レベルであることを確認し、連続して計測した。日没時の約 30 分前から太陽を BDORT で測定すると (図 1)、その強さは通常「-1」程度であったが、測定開始約 20 分後に突然「+3」以上の強陽性となった。それはおよそ 4 分間持続した後に、再度「-1」に減弱した。紙は 100 枚を重ねたままアルミホイールで 2 重に包んで第三者が持ち、太陽が BDORT で強陽性の時だけ表側 (罫線の印刷側) を太陽に曝した (図 2)。



図 1



図 2

その間は BDORT で連続して太陽を BDORT で検査し、陰性になる直前に再度アルミホイールで覆った。アルミ箔で二重に包み磁場・電場・放射能の影響が少ない場所で保存した。使用時は、電磁場の少ない所で、作成した紙を手で直接触れないように一枚ずつ二重のアルミ箔で包み、紙の表側 (罫線の印刷側) のアルミ箔を開きおよそ

1 分間患部に接触させた。結果：臨床効果：搔痒感・痛みに対しては 70%以上の症例において瞬時に自覚症状の改善が認められた。打撲等の機械的作用が原因と考えられる痛みに対しては効果が少なかった。太陽エネルギー貯蔵紙は作成後 1 年半を経過しているが、その効果は維持されている。

考察：太陽の人体に及ぼす影響についての報告は多数有るが、太陽のエネルギーを紙に貯蔵し、それを臨床応用した報告は渉猟した範囲では認められなかった。

作成上の問題点としては、2005 年の 4-6 月は天候良くない日が多く、晴れて夕日が美しく見える日は少なく、1 ヶ月に 1-2 日程度であった。そのため、作成するために多くの時間を必要とした。BDORT による太陽の反応は季節的、地域環境および高度による変動が有ると思われるので、今後は更に、各地域で年間を通じた調査が必要である。放射能の影響については、岐阜県の地層の構造が一定でなく、地域によってかなり異なるので事前の調査・確認が必要である⁴⁾。

文献：

- 1) Yoshiaki Omura: Special Sunrise & Sunset Solar Energy Stored Papers and Their Clinical Applications for Intractable Pain, Circulatory Disturbance & Cancer: Comparison of Beneficial Effects Between Special Solar Energy Stored Paper and Qigong Energy Stored Paper. *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res. Int. J* Vol.29, 1-42, 2004
- 2) Yoshiaki Omura et al: Common factors contributing to intractable pain and medical problems with insufficient drug uptake in areas to be treated, and their pathogenesis and treatment: part 1. Combined use of medication with acupuncture, (+) Qi Gong energy-stored material, soft laser or electrical stimulation, *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res. Int. J* Vol.17, 107-148, 1992
- 3) Yoshiaki Omura: Asbestos As a Possible Major Cause of Malignant Lung Tumors (Including Small Cell Carcinoma, Adenocarcinoma & Mesothelioma), Brain Tumors (i.e. Astrocytoma & Glioblastoma Multiforme), Many Other Malignant Tumors, Intractable Pain Including Fibromyalgia, & Some Cardio-Vascular Pathology: Safe & Effective Methods of Reducing Asbestos From Normal & Pathological Areas. *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res. Int. J.*, Vol. 31, pp. 61-125, 2006
- 4) 下畑五夫：岐阜県における自然放射線の測定について、岐阜県博物館調査研究報告、第 16 号、43-48、1995

BDORT 法による環境汚染 と 人体障害の診断と治療について

岡 宗由 M.D., Ph.D., F.I.C.A.E, Cert. ORT-MD (3 Dan)

医療法人 敬和会 大分岡病院、大分

(Correspondence: FAX : 097-522-3777, e-mail : bunsikyomei@oka-hp.com)

環境汚染は、現在、地球規模で拡大・悪化しつつあると警告が発せられています。最近、日本でも、従来のシックハウス症候群とは別に、新・増改築家屋とは関係のない人々にも汚染物質による身体障害が幅広い年齢層で多発しています。私は、その原因を追求していたところ、雨水中に各種類の汚染物質が多く含有されており、これが人体障害の重要な要因をなしていることが判りました。これらの有害物質は偏西風に乗って日本にやってくる雲及びその降雨水の中に存在し、中国方面の汚染との関与が強く示唆されました。私は 2006 年 6 月に中国に赴き、直接、上海・蘇州・太湖周辺の水を採取し、Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y. 1977-2007 以下 BDORT) で調べたところ、高度の汚染の状況を確認しました。これにより日本でみられる雨水中の汚染物質が中国の高度な汚染と密接な関係のもとに発生していることの可能性が判り、これについて、これまで報告してきました。今日は、これまでの報告を総括し、汚染の状況・人体障害（症状）とその診断と、特に治療について報告したいと思えます。なお、時間があれば、BDORT の基本原理とその運用上の問題についてもふれてみたいと思っています。

1) 汚染物質の特定は、臨床の場合では、現状では BDORT が唯一の方法と考えている。2) 症状：全身的な影響がみられるが、主な症状は、① 冷え症 ② 疲労＝働く意欲の低下 ③ うつ状態 → いじめ → 自殺④ 物忘れ（短期記憶障害）⑤ 感染症にかかり易い（インフルエンザ A, B 感染）⑥ 疼痛の増強 など、3) 治療法として有効な手段は①適正な漢方、②鍼、③気功。化学物質については、現在のところ有効なものは見つかっていない。有効な漢方の選定には、漢方理論により、「証」の決定からのみでは、適正で有効な方剤を選出できないことがあり、BDORT による免疫・血行・脳内神経伝達物質などの生化学物質の R.C.S.を用いて生体内生化学物質の改善を確認する必要がある。いかに「証」が正しいと思われても、生体機能の改善がなければ、その処方は無効であるだけでなく、却って生体の免疫抑制など有害に作用する。有効でなければ、即、有害である漢方の生体に対する性質からみると漢方は決してソフトではなく、非常に厳しい薬剤であることを強調したい。漢方薬以外の薬剤についても、このような反応がみられる。気功の効果は非常に優秀である。しかし、常に客観性と再現性をもってその効果を確認しつつ慎重に使用しないと自己満足に終わってしまう危険性がある。

BDORT 現象は、一定の周波数をもった微粒子（超）間の共鳴と干渉によるエネルギーの変化の現象を生体の筋のトーンスの変化により検証しているのではないかと思われる。これは正に、生命現象を量子力学的現象としての解決に関与するものではないかと思っている。

REDUCED GLUCOSE UPTAKE WITH MARKEDLY INCREASED GASTRIN RELEASING PEPTIDE, OSTEOPONTINE & ASBESTOS FOUND IN DARK BLACK AREAS OF PET SCAN OF CHEST WALL IN PATIENT WITH MESOTHELIOMA

Yoshiaki Omura, MD, ScD, FACA, FICAE, DAAPM, DABFM, FAAIM, FRSM

Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; Adjunct Prof. Dept. of Community & Preventive Medicine, New York Medical College; President, Int'l College of Acupuncture & Electro-Therapeutics; Prof., Dept. of Non-Orthodox Medicine, Ukrainian National Kiev Medical University

Yasuhiro Shimotsuura, MD, FICAE

Vice President, ORT Life Science Research Institute, Kurume City, Japan; Vice President, Japan Bi-Digital O-Ring Test Medical Society

Harsha Duvvi, MD, MPH, FICAE

Assistant Prof., Dept. of Community & Preventive Medicine, and Dept. of Neurology, New York Medical College

Naoki Ohata, DDS, PhD

Executive Member, Dental Division of Japan Bi-Digital O-Ring Test Medical Society

Motomu Ohki, MS, FICAE

Senior Research Scientist, ORT Life Science Research Institute, Kurume City, Japan
(Correspondence: Yoshiaki Omura, MD, ScD, 800 Riverside Dr. (8-I) New York, NY 10032
(Tel: (212) 781-6262 Fax: (212) 923-2279)

ABSTRACT

PET Scans are most often used for detecting cancer and other malignant tumors because for most of them, glucose uptake is higher than in normal tissues. However, in mesothelioma, our study showed excessive deposits of Asbestos of 0.5mg BDORT units, and markedly reduced Glucose uptake of less than 1/30 of normal tissue. As a consequence, the authors found that, in the location where there is a mesothelioma, distinctive dark black areas much darker than any normal tissue appear in the PET Scan. Therefore, a PET Scan taken parallel to the front & back of the chest wall often shows pitch-black areas on the chest wall of the patient, located on the ribs in the case of large black areas and between the ribs in the case of small black areas. If the amount of Asbestos in these areas is found to be very high in the same location where the glucose uptake is very low, one can suspect the presence of mesothelioma, which is often found at the inner wall of the chest cavity or the peritoneum in the abdomen with significantly increased Osteopontine (about 350-400 times that of normal tissue) and very significant increase in Gastrin Releasing Peptides (more than 1200 times that of normal tissue). In some patients, the only abnormal blood chemistry detected was abnormally increased Pro-Gastrin Releasing Peptide. This dark black area on the PET Scan image taken parallel to front and back of chest wall (with marked increase in asbestos, Gastrin-Releasing Peptide (GRP), & Osteopontine and marked decrease in glucose uptake in the pathological tissue) can be considered a characteristic finding for the diagnosis of mesothelioma. GRP is often increased more significantly in Mesothelioma than Osteopontine.

How to Increase Abnormally Reduced Normal Cell Telomere and Reduce Very High Cancer Cell Telomere to Less Than 1 yg by Stimulation of Accurate Organ Representation Areas of Adrenal Cortex at Upper Eyelid

Yoshiaki Omura, MD, ScD, FACA, FICAE, DAAPM, DABFM, FAAIM, FRSM

Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; Adjunct Prof. Dept. of Community & Preventive Medicine, New York Medical College; President, Int'l College of Acupuncture & Electro-Therapeutics; Prof., Dept. of Non-Orthodox Medicine, Ukrainian National Kiev Medical University

(Correspondence: Yoshiaki Omura, MD, ScD, 800 Riverside Dr. (8-I) New York, NY 10032
(Tel: (212) 781-6262 Fax: (212) 923-2279)

ABSTRACT

The author has been researched the organ representation areas of the eyebrows and upper eyelids. In 2005, the author reported that each side of the eye brow represents every organs of the body. Recently the author has found the accurate organ representation areas of adrenal cortex at upper eyelid. At the upper eyelids as major organ representations areas, there are adrenal glands representation area and spleen representation area among other organ representation areas. At upper eyelid, from just above the center of pupil of each the eye to the nose about 1 - 1.5cm wide area, there exists adrenal cortex organ representation area. Then there are organ representation areas of thyroid gland, Thymus gland & Parotid gland between the base of nose and the organ representation areas of Adrenal gland. When the author examined Adrenal gland representation areas of the right side and left side of face of more than 100 individuals by Bi-Digital O-Ring Test and found that frequently left side showed abnormality when normal cell telomere measured at arms are very low, while right side of adrenal gland representation area is often normal. If the result of Bi-Digital O-Ring Test is -2, -3 and more, it is a sign of very significant abnormality in the body often with markedly reduced normal cell telomere of 1 yg or less. If the result of the left side of the adrenal cortex organ representation area is -2, -3 or more negative, normal cell telomere is very low, with high probability of presence of malignant tumor(s), with increased Integrin $\alpha 5\beta 1$. In the patients with cancer, if normal cell telomere is very low such as 1 yg ($=10^{-24}$ g) or less, Telomere and Integrin of the cancer is increased and cancer growth will be enhanced. To increase abnormally reduced normal cell Telomere and reduce very high cancer cell telomere to less than 1 yg, the author found in 2004 one optimal dose of DHEA temporally inhibited cancer cell activity with increased normal cell telomere from 1 yg to 505 – 530 ng, and in majority of people as long as wearing BDORT positive clothes and do not expose their body to very low temperature and do not take drug that inhibit DHEA effects, the beneficial effects last more than several months. While evaluating the effects of various safe methods of stimulating of abnormal adrenal cortex representation area on left upper eyelid, the author found that after stimulation of the adrenal gland representation area by simple pinching or squeezing 10-20 times by fingers, normal cell telomere increases from as low as 1yg to 505-540ng and cancer cell telomere and Integrin $\alpha 5\beta 1$ reduced to less than 1yg. By normalizing the function of adrenal cortex by these simple method, we have effectively and safely increased the normal cell telomere and decreased the cancer cell telomere to less than 1yg and able to prevent cell division of cancer cells. It is important to examine daily or at least weekly evaluation of normal cell telomere to maintain its' value above 500 ng.

心窩部における Integrin $\alpha_5\beta_1$ 高濃度反応と腹腔神経叢との関連

古川みどり M.D., Ph.D., Cert. ORT-MD (1Dan)¹, 廣部千恵子 Ph.D., Cert.ORT-Pharm(2Dan)², 下津浦康裕 M.D., F.T.C.A.E., Cert. ORT-MD(6 Dan)³

¹ 東京女子医科大学成人医学センター、² 清泉女子大学、³ 下津浦内科

(Correspondence: e-mail: mfulu@iog.twmu.ac.jp, FAX: 03-3280-0561)

Bi-Digital O-Ring Test¹⁾ (Omura Y. 1977-2007; 以下 BDORT)での癌、前癌状態のスクリーニングとして Integrin $\alpha_5\beta_1$ の XY scanning が使われるが、100 ng では反応部位を catch できない症例がある。それらは、既に潜在的な転移状態が疑われるような病態であることもあるが、他の部位が比較的低濃度であるにもかかわらず心窩部にだけ高濃度の Integrin $\alpha_5\beta_1$ の反応を認めることがあり、そのような症例はかなりの頻度で存在する。今回、後者の症例について報告するとともに、その意味について考察した。

【症例】

Integrin $\alpha_5\beta_1$ 100 ng の XY scanning をした後金属棒にて病変を描き、その後、300 ng、500 ng で同様の操作を行った。その結果、心窩部に 300 ng、500 ng の高濃度の反応を認めた。心窩部における高濃度の反応 point の周囲を、金属棒にて再度 100 ng、200 ng にてチェックし、スクリーニングの取りこぼしがあったかを確認したが、100 ng、200 ng の反応はなく、300 ng から反応した。腕のテロメアは明らかな低下を認めた。なお、適宜、腹部 Echo、胃透視、食道胃ファイバースコープ、大腸ファイバースコープ、造影つき腹部 CT、MRI(MRCP を含む)等の画像検索、CEA、CA 19-9 を含む各種腫瘍マーカーの測定等を行った。これらは正常であった。

【心窩部に高濃度の Integrin $\alpha_5\beta_1$ 反応が多い理由の考察と検証】

1 癌や前癌状態としての反応 (特に膵臓)

膵臓の悪性腫瘍は膵臓癌をはじめ悪性度が高いため、いわゆる前癌状態においても、高濃度の 300 ng 程度から発現してくるような性質をはじめから持っていることが理由かと考えられた。しかし、膵臓癌はそんなに頻度が多いものではなく、これだけで全ての症例を説明するのは無理があるように思われる。また、より低濃度の他の部位の多くが各種癌組織プレパラートと共鳴するのに比べ、この心窩部は高濃度であるにもかかわらず癌組織プレパラートと共鳴しない症例も認めた。

2 電磁波

パソコンを全く使用していない人も多数認めた。

3 気の junction²⁾との関連

患者の junction の位置と、心窩部に Integrin $\alpha_5\beta_1$ の反応があるかは無関係であり、junction を動かしても心窩部の Integrin $\alpha_5\beta_1$ 濃度や位置は変わらなかった。

4 腹腔神経叢との関連

心窩部であることに注目し腹腔神経叢との関連を考察した。この心窩部の Integrin $\alpha_5\beta_1$ の高濃度反応部位は、腹腔神経叢組織写真³⁾と共鳴した。心窩部の反応部位は腹腔神経叢に一致している可能性があり、この部位の Integrin $\alpha_5\beta_1$ 反応は、胃や膵臓、肝臓等の Integrin $\alpha_5\beta_1$ を何らかの形で反映している腹腔神経叢⁴⁾の反応をみて

いる可能性があると考えられた。なお腹腔神経叢との関連がないと考えられる肺癌の場合には、腹腔神経叢部位に Integrin $\alpha 5\beta 1$ の反応は認めなかった。また、この心か部における Integrin $\alpha 5\beta 1$ の高濃度反応部位は、いくつかある Integrin $\alpha 5\beta 1$ 反応部位の中で上流になっていることが多く、その場合この部位で薬合わせをすると効果的であると思われた。



「腹腔神経叢 引用文献 3) p.107 より抜粋」

【引用文献】

- 1) Omura Y. Acupunct. Electro-ther. Res. 1981;6:239-254.
- 2) 大伴正総 第7回 BDORT 国際シンポジウム 2006, p.52.
- 3) 横地千仞, Rohen JW., Weinreb EL. カラーアトラス 人体 解剖と機能 医学書院, 東京, 1991, p.106-7.
- 4) Lutjen-Drecoll E., Rohen JW. アトラス解剖学 人体の構造と機能 西村書店, 新潟, 2002, p.146-7.

現代医学的診断で否定され BDORT で診断した早期肺癌の CT

前田 華郎 MD., Ph.D., Cert ORT-MD (3Dan)

前東京女子医大形成外科教授；アドバンス・クリニック横浜院長、神奈川

(Correspondence: TEL : +81-45-328-4166 , FAX:+81-45-328-4133,

e-mail: karomaeda@pop21.odn.ne.jp)

要約：

当クリニックでは開設以来 6 年間に 382 名の肺癌の患者を診療してきた。

このうち 39 名（10%）が現代医学的診断で癌を否定されたが、Bi-Digital O-Ring Test (OMURA, Y.1977-2007; 以下 BDORT) で早期肺癌と診断した。

このうち 25 名が原発性肺癌で、13 名が転移性癌、1 名がアスベスト（中皮腫）との合併であった。

BDORT で転移性肺癌と診断された 13 名の原発巣の内訳は、膀胱癌：1、甲状腺腫瘍：2、舌癌：1、腎臓癌：2、大腸直腸癌：3、乳癌：1、胃癌：1、食道癌：1 喉頭癌：1 であった。

CTNM 分類を行うための画像分類は、

A：基本型、1) 潜在型、2) 結節型、3) 腫瘤型、4) 二次変化型

B：付随所見、1) 肺外浸潤、2) リンパ節腫大、3) 胸部内転移であるが、BDORT ではこれらの像が明白になる以前の状態を捉えられる。そこでそれらのうちから、興味ある数例の胸部 CT を供覧し、治療後癌反応が BDORT で陰性化した CT と比較供覧する。

Role of One Optimal Dose of DHEA for Extremely Low Normal Cell Telomere & Malignant Tumor as well as the Clinical Importance of Giving Optimal Dose of Any Beneficial Drugs

Yoshiaki Omura, MD, ScD, FACA, FICAE, DAAPM, DABFM, FAAIM, FRSM

Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; Adjunct Prof. Dept. of Community & Preventive Medicine, New York Medical College; President, Int'l College of Acupuncture & Electro-Therapeutics; Prof., Dept. of Non-Orthodox Medicine, Ukrainian National Kiev Medical University

(Correspondence: Yoshiaki Omura, MD, ScD, 800 Riverside Dr. (8-I) New York, NY 10032
(Tel: (212) 781-6262 Fax: (212) 923-2279)

ABSTRACT

Oral intake of optimal dose of DHEA (Dehydro-Epiandrosteron) can also significantly reduce abnormally high cancer cell telomere to 1 yg ($=10^{-24}$ g) or less but in Mesothelioma it reduces to the amount close to normal cell telomere of the same internal organ while normal cell telomere moderately increases. In average adult, optimal dose of DHEA is dependant on age, body weight, and other factors. For young adults, even 10 mg, for each dose may be toxic for some of them, but for most of adults between the ages of 20-80 optimal dose is anywhere between 4-12.5 mg. However most of the commercially available DHEA tablet is 25mg, and some of them are 10 mg. Most of doctors give to their patients average 25mg daily for the purpose of rejuvenating as miracle drug. If one continues to take 25mg, which is a toxic dose to most of the people for one dose, instead of the well known beneficial effect of rejuvenating with losing excessive fat and increased muscle mass and increased muscle strength and wrinkled dry skin becomes elastic and soft, and reducing cancer parameter towards normal, it may produce completely opposite effect and may also contribute to genesis of cancer and aging. By further evaluating these published works, the author noticed that those who claim anti-aging and rejuvenating effects use close to optimal dose or within the safe range of the dose, and those who claim undesirable effects use an over-dosage of DHEA. Our own study indicated that the optimal dose determined by Bi-Digital O-Ring Test which maximizes the increase of amount of normal cell telomere is completely dependent on the individual and varies between 3-12.5 mg. While most of the commonly sold tablet is 25 mg (occasionally 10 mg capsule) and therefore if you take 25 mg while the optimal dose is 8 mg, you have an already excessive toxic dose. Some people think that if you take two tablets (50 mg), the benefits will be even greater. Many of these people develop deteriorating symptoms that are the complete opposite of the supposed beneficial effect. The normal cell telomere of those who take 25-50 mg everyday are often reduced to an abnormally low level of less than 1 yg ($=10^{-24}$ g). When the optimal dose is used, most of the telomere will increase even among those with extremely low levels such as 1 yg, to around over 500 ng. Most of the cancer cell telomere between 800-1500 ng, and these abnormally increased cancer cell telomere become practically zero (less than 1 yg). Changes in other cancer-related parameters are as follows: Integrin $\alpha_5 \beta_1$, which is usually more than 300 ng – 450 ng in cancer tissue, is

reduced to less than 1 yg; similarly, Oncogen C-fos Ab2, which is usually found at the same value as Integrin $\alpha_5\beta_1$, is also reduced to one yg or less. Hg in the cancer tissue is 200 - 400 mg BDORT units, but it will become less than one yg. Folic acid in the cancer tissue is extremely low, usually less than one zg (10^{-19} g), increases to normal tissue levels of 40-50 ng. Acetylcholine is almost always reduced to less than one fg or one ag, and will increase to 40-50 μ g by optimal dose of DHEA. Acetylcholine of normal tissues is over 350-1500 μ g. In cancer tissues, acetylcholine is reduced so low that intercellular communication is lost, since acetylcholine is the essential neurotransmitter between cells. Therefore, up to 40-50 μ g Acetylcholine is the the only item that cannot be brought back to normal levels, despite significant increases. This is a major limitation. Since the cancer cell telomere becomes close to zero (one yg or less), cancer cells can no longer divide, and, therefore, this is the simplest approach to controlling cancer growth. An additional advantage of DHEA is that after following up with more than 50 subjects, however, the author found that, as long as everything is kept at the same conditions, the effect of one dose of DHEA often lasts for more than several month. In between, if the patient takes additional medication without finding drug interaction among more than 2 drugs, and the effects of DHEA decreases, then amount of normal cell telomere will not increase by itself. Thus, ideally, a physician should check the telomere level at least once or twice weekly so that it would be possible to maintain cancer cell telomere levels at practically zero, while increasing normal cell telomere to ideal level of 505-530 ng and maintain it.

The phenomena of normal cell telomere increasing effect while cancer cell telomere level reaching nearly zero by Acupuncture was first discovered by the author by press-needle stimulation of true ST. 36 in the mid 1990's

When any drugs such as broad anti-bacterial agent Amoxicillin, or mixture of EPA & DHA as antiviral agent, or Folic Acid or specially prepared Cilantro tablet are to be given to patients, if optimal dose is given to individual patient, normal cell telomere always goes up to over 500ng even when it is less than 1 yg. The author's definition of optimal dose is determined before administration by let the patient holding the drug. The optimal amount of the drug is defined as the amount of drug that increase normal cell telomere to its maximum extent. The optimal dose can change depending on the patients' conditions. The next important point is to give optimal dose with optimal intervals.

バイ・デジタルオーリングテストによる難病の診断と治療 — 藍の錠剤を用いた症例 —

下津浦康裕 M.D., F.I.C.A.E., Cert. ORT-MD (6 Dan)^{1),2)}、

岩城完三 D.V.M.³⁾、政木直也³⁾、福田恵温 Ph.D.³⁾

1) ORT 生命科学研究所、久留米市、福岡県

2) 下津浦内科医院、久留米市、福岡県

3) 榊林原生物化学研究所 研究センター 医薬研究部門、岡山市

(Correspondence: TEL: 0942(36)0630, FAX: 0942(36)1961, e-mail: seimei@bdort.net)

【目的】これまで、林原生物化学研究所の基礎実験からタデ藍エキス (*Polygonum tinctorium* Lour) には抗ウイルス作用、抗酸化作用、抗癌・抗発癌作用、抗アレルギー作用、抗炎症作用、高脂血症改善作用、歯周病菌やピロリ菌に対する抗菌作用などがあることが確認され、中でもタデ藍エキスは特に抗炎症作用に優れていることが報告されてきた。我々は、バイ・デジタルオーリングテスト (OMURA, Y. 1977-2007; 以下 BDORT) 臨床応用して、藍錠剤がサルコイドーシス、拡張型心筋症、多発性軟骨炎、膠原病等の自己免疫疾患や Herpes Zoster に対して有効なこと、放射線障害に対して効果があることがわかってきたので、ここに紹介する。

【症例】

症例 1) 25 才、女性 サルコイドーシス、クラミジア感染症、
2005 年 9 月来院時、BDORT により診断した時、サルコイドーシス以外に単純ヘルペスウイルス、サイトメガロウイルス、クラミジア感染症があった。BDORT による Drug Effect Testing により、ツムラ当帰芍薬散 7.5g3×、クリット[®] 2T2×、林原藍錠剤 6T3×を処方した。その後、胸部 CT 上で観察される肺の粟粒陰影が著名に減少していき、現在、サルコイドーシスが寛解している症例である。

症例 2) 38 才、男性 拡張型心筋症、房室ブロック、僧坊弁閉鎖不全
BDORT で診断すると、Cocksackie Virus B3、Adenovirus type 3、Chlamydia pneumoniae, HSV, Cytomegalovirus の感染があり、心臓において、Thromboxane B2 が高値であった。この時、処方したのが、ORT-乳酸菌 16T4×、藍錠剤 4T4×、ジスロマック 2T1×/3TD であった。1 カ月後に来院された時、Cocksackie Virus B3 が 10^{-7} g (BDORT Unit) → 4×10^{-17} g (BDORT Unit) に低下、Adenovirus type 3 が 10^{-7} g (BDORT Unit) → 4×10^{-9} g (BDORT Unit) に低下した。左室駆出率 (EF) が、3 カ月前 18% だったものが、34% に改善した。この時、藍錠剤を 4T4× → 8T4× に増量した。さらに 1.5 カ月後來院。Cocksackie Virus B3 は 10^{-24} g (1yg) (BDORT Unit) まで低下し、EF 値は 39-40% とさらに改善、BNP 値も 360 pg/dl から 60pg/dl まで低下した。現在 EF 値は 43% まで改善して、BNP は 31.3pg/dl まで低下して良好な症例である。

症例 3) 75 才、女性 再発性多発性軟骨炎
2006 年 6 月 14 日、BDORT で診断したら、Borrelia burgdorferi 10^{-7} g (BDORT Unit)、Substance P 10^{-7} g (BDORT Unit)、TxB2 10^{-5} g (BDORT Unit) であった。また血清補体価が 56.5、C3 が 169、C4 が 33 であった。そこで、藍錠剤 3T3×、EPA- α 6P3×を処方した。現在、BDORT による Borrelia burgdorferi、Substance P、TxB2 の反応も低下し、清補体価が 49.6、C3 が 137、C4 が 28 と低下し、良好な症例である。

症例 4) 40 才、女性 I g A 腎症、高血圧症

IgA 腎症で来院。免疫 IgA が 649 だった。ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯 7.5g 3 × を処方して、免疫 IgA が 541 まで低下した。藍錠剤 6T3 ×、ツムラ釣藤散 7.5g 3 × を追加した。免疫 IgA が更に 427 まで低下した。

症例 5) 50 才、女性 Herpes Zoster による腰痛
藍錠剤 9T3 × で BDORT による Herpes Zoster 及び Substance P の反応が消失した。

症例 6) 80 才、男性 Herpes Zoster による右胸部痛、虚血性心疾患
Herpes Zoster による右胸部痛には藍が有効、虚血性心疾患には同じ藍の分画である Substance Z (I-10) が有効であった。

放射線障害に対する効果：放射線障害に対しては、甲状腺、胸部、腎臓、子宮に BDORT による異常が出現するが、BDORT による Drug Effect Testing によると、藍錠剤が有効であった。

【考察】 藍錠剤は、サルコイドーシスや拡張型心筋症や膠原病等の難病に対して有効な症例を経験したので報告した。今回紹介した症例で Cocksackie Virus B3、Adenovirus type 3、Herpes Zoster 等のウイルスに対して藍を投与した患者に BDORT によるウイルス反応の低下が認められ、有効であることが考えられた。同じ藍の分画である Substance Z (I-10) は、Chlamydia や Borrelia burgdorferi には有効であったが、Herpes Zoster に対しては有効ではなかった。同じ藍からできたものでも、作用機序が違ふと思われる。更に、放射線障害にも有効であることが考えられた。藍は、さまざまな難病に有効であることが示唆されるので、是非、追試をお願いしたい。

文献

1. Omura Y. Acupunct Electrother Res 1981; 6 (4) :239-54
2. Omura Y. Acupunct Electrother Res 1992; 17 (1) :29-46
3. Omura Y. Acupunct Electrother Res. 1986;11 (2) :65-100.

自然免疫物語

斉藤 隆 M.D, Ph .D, Cert. ORT-MD (1 Dan)

東西クリニック院長

(Correspondence : e-mail: saito@706.jp, FAX: 048-858-8381)

ラム病院でみつけてくれた副腎腫瘍が全ての私のこの数年、悩まされ続けてきた病気と症状の原因だった。アドレナリンの一過性の分泌過剰が私の病気と症状の原因と考えると説明がつく。1992年1月17日の脳出血の ATTACK は正月休みなど長期（7日）に休むと血圧が正常になるので高をくくっていたのが原因だった。常に患者を診ていると血圧が毎日200ミリ以上あったことなる。それに気がつかないでいたのが原因だった。2004年のインテグリンの増加ですい臓がんが強く疑われたのも臍頭部に副腎アデノームがすい臓の裏にあり、波動的に一致したためと思われる。しかし、インテグリンが、自然免疫力をたかめるベータグルカンのパン酵母で急速に低下することを確かめているので今度のことでもおちついている。2005年の脳血栓の ATTACK もストレスによるアドレナリンの急速な上昇が原因だったと思われる。これらのエピソードは肥満が基本になっている。私はそんなに肥満でもないのにこのありさまだ。タイのチェンマイに来て、西洋人が多いのにびっくりしているが、彼らの太りようは、私の数倍である。私だったら命がいくつあっても足りないと思われる。あきらかに文化、食生活の違いがある。人種の差を痛感させられた。

これからはストレスでアドレナリンを上げない生活を考えないと命取りになる。色々考えるが、ここは、瞑想の世界に徹してみる事だろう。瞑想と仏教と宇宙の波動と気が相手だ。相手に不足はない。

病気してから、さまざまな出会いがあったが(自然免疫, 気功, 瞑想, 波動, 仏教, スパ, タイ, チェンマイ)を大切にしていけば間違いない。それにはアユタヤの列車で会った僧侶の姿が印象的であった。

座席に座っている姿が座禅を組み背筋がまっすぐで修練を積んでいる感じだった。

金属アレルギーが原因と思われる口腔扁平苔癬に **Bi-Digital O-Ring Test** を適応し、原因金属の除去および、藍配合歯磨剤を使用した 2 症例

砂川正隆 D.D.S., Ph.D, Cert. ORT-DDS (1Dan)¹⁾,
小山悠子 D.D.S., Ph.D, Cert. ORT-DDS (1Dan)¹⁾,
福岡博史 D.D.S., Ph.D, Cert. ORT-DDS (1Dan)¹⁾,
福岡明 D.D.S., Ph.D, F.I.C.A.E., Cert. ORT-DDS (3Dan)¹⁾
岩城完三 D.V.M.²⁾, 宮田聡美²⁾, 政木直也²⁾, 福田恵温 Ph.D.²⁾,

- 1) 医療法人社団明徳会福岡歯科統合医療研究所, 東京都中央区
- 2) 榊林原生物化学研究所 研究センター 医薬研究部門, 岡山県岡山市
(Correspondence : TEL: 03-3664-3690、FAX : 03-3667-4848、
e-mail: i-meitok@ja2.so-net.ne.jp)

【はじめに】

扁平苔癬は角化異常を伴う難治性炎症性疾患で、外傷、細菌やウイルスの感染、アレルギー、服用中の薬剤、遺伝などが原因として報告されている。口腔扁平苔癬については、歯や補綴物による粘膜の刺激や喫煙なども要因となりうる。今回、口腔扁平苔癬の 2 症例（うち 1 症例は足にも発症）に対して **Bi-Digital O-Ring Test** (OMURA, Y. 1977-2007; 以下 BDORT) を適応し、方針を決定し治療を行ったところ、いずれも早期に症状の改善が認められたので報告する。

【治療方針の決定】

①原因金属の推定：2 症例とも、大学病院口腔外科で口腔扁平苔癬の診断を受け、さらに皮膚科にてパッチテストを受け、その結果を持って来院された。パッチテストで陰性反応でも、BDORT では陽性反応が出ることはよくあるため、BDORT にて金属適合試験を行い、原因金属の推定を行った。

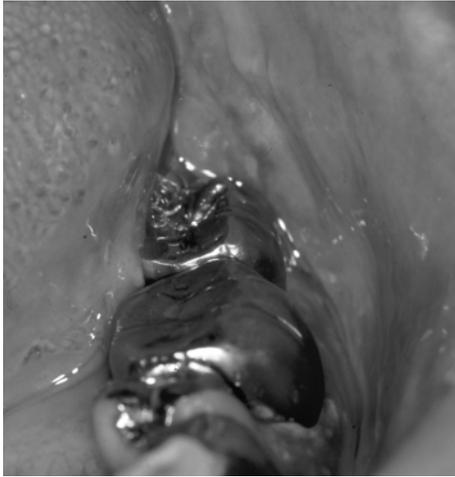
②原因歯の推定：いずれの患者の口腔内にも、多数の金属修復・補綴物が入っていた。アレルギーの原因となりうる、すべての金属を交換するにこしたことはないが、患者の経済的、時間的制約もある。そこで、現症の直接の原因となっている金属の推定を行うため、BDORT を行った。

③原因金属の除去、交換：①②で決定した原因と考えられる金属を除去した。代替修復・補綴物の材料、セメントに関しては、BDORT 適合試験を行い決定した。

④口腔清掃に関して：両症例とも潰瘍型の口腔扁平苔癬で、疼痛を伴うものであった。よって、歯ブラシを当てられない部位もあり、口腔清掃状態は不良であった。また市販の歯磨剤は刺激が強く使用できないとのこと。そこで、BDORT 適合試験で(+)反応を示した藍配合歯磨剤 (ai デンタルジェル：H+B ライフサイエンス社製) を適応したところ、痛みもなく使用でき、口腔内環境も改善されてきた。

【結果】

2 症例とも金属の交換・除去を始めた直後より、症状の改善傾向が認められた。
症例① Y.T ♂



歯肉縁部に炎症は残っているが、頬粘膜部は消失。

2006年11月10日

2007年1月16日

症例② I.T 女



頬粘膜全体に広がっていたのが、範囲が局限してきた。

2007年1月5日

2007年2月2日

【考察】

近年、口腔内の金属が原因のアレルギー疾患が増えている。扁平苔癬も金属アレルギーが原因で生じる疾患の1つである。パッチテストや血液検査にて金属アレルギーの診断がついたとしても、どの金属を交換すべきかの判断は一般検査では難しい。今回、BDORTを用いることにより、原因金属を推定し、その除去・交換することによって、早期に症状の軽減が認められた。BDORTの有用性を再確認した。

また本症例のような疼痛を有する口腔粘膜疾患には、市販の歯磨剤はその刺激性から使用困難なことが多い。歯磨剤を使用せず、ブラッシングを行っても良かったが、疼痛のため十分な機械的清掃は不可能であった。そこで、抗菌作用、抗炎症作用、抗酸化作用を有する藍抽出エキスを含む歯磨剤を使用することにより、口腔内環境は、使用前と比較し改善されてきた。また藍エキスには抗アレルギー作用もあるため、扁平苔癬のようなアレルギーが関係する疾患には、直接的な効果も期待できる。

Bi-Digital O-Ring Testによるアトピー性皮膚炎の治療例

片山 修 D.D.S.

片山歯科医院 新潟県新発田市

(Correspondence: 片山歯科医院 FAX:0254-22-1182、

e-mail: osamubobkatayama@aw.wakwak.com)

「目的」

重度のアトピー性皮膚炎を発症している患者(28歳女性)に対し、Bi-Digital O-Ring Test (Omura,Y.1997.2007;以下BDORT)での噛み合わせ治療による自律神経免疫療法(安保教授:新潟大学)により効果を検討した。

「方法」

初診血液像 (H17.2):Neutro(78%) Lympho(10.2%) Eosino(7.1%)

口腔内所見:正中1mm左側変移、両側上顎犬背にファセット、金属充填

体内水銀量:60mg Acetylcholine:2000 μ g

BDORTにて生体バランス、金属アレルギーについて検査。強度の搔痒感により睡眠障害を呈し、ブラキシズムの為、顎関節-仙腸関節のバランスが崩れており、スプリントを装着しBDORTでバランスを確認し改善を図る。金属アレルギーの為、口腔内金属の除去とCilantroにてデットクスを行う。また、BDORTで仙骨が(-)となりミネラル不足を疑った・ミネラル不足は交感神経過緊張を招き、低体温化の原因となり、免疫力の低下に繋がるため、塩(蘇生海塩)を摂取させた。

「結果」

血液像(H17.8.16):Neutro(83.9%) Lympho(7.5%)Eosino(4.6%)

血液像(H17.9.13):Neutro(82%) Lympho(9.8%)Eosino(3.3%)

体内水銀量:1mg以下 Acetylcholine:6000 μ g

長期に使用していたステロイドを治療開始と同時に中止させたため、一時増悪したが三ヵ月程で症状が消過し、その後、妊娠、出産と良好な結果となった。過度のブラキシズムは生理的咬合状態に悪影響を及ぼし、頭頸部筋肉群や諸組織の過緊張の原因となる。特に椎骨動脈の圧迫は脳底部の血流を阻等し、常に視床がストレス状態となる為、自律神経系、内分泌系、免疫系に影響を及ぼすものと思われる。BDORTによるスプリント療法は生理的な顎位に回復させ、生体Jバランスを改善し、生理機能を安定させる結果となった。しかし、顎位が安定してもミネラルの摂取量が不足していると副交感神経支配の仙骨はBDORT(-)で、同様に視床、星状神経節も(-)となり、自律神経系の改善が認められないため、ミネラルの摂取は不可欠と思われる。

「考察」

咬合診断へのBDORT応用は1992年福岡明先生の発表以来、良好な治療効果が多数報告されている。頭痛、肩こり、腰痛、不眠、自律神経失調症、アトピー、生理痛等の不定愁訴を訴える患者さんが増加しており、ブラキシズムなどによる噛み合わせの異常も原因と考えられる。BDORTによる咬合治療は生体バランスを改善するとともに生理機能を向上させ、健康増進につながっている。

参考文献

1. 大村恵昭：図説バイ・デジタルオーリングテストの実習。
医道の日本社、東京1986年
2. 日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会
Bi-Digital O-Ring Test seminar Text 2003年
第7回Bi-Digital O-Ring Test国際シンポジウム抄録集
3. 福岡 明：Bi-Digital O-Ring Test(簡単な患者の身体状況把握法)の歯科的応用(1)(2)
日本歯科評論、No.531:195-204 No.532:195-206 1987
4. 安保徹：自律神経と免疫の法則。三和書籍
5. Peter E. Dawson：第2版 オクルージョンの臨床。医書集出版。
6. 児玉剛之：咬合挙上副子(スプリント)による内向性メラトニンの活性化について。
歯学SHIGAKU(ODONTOLOGY)第88巻 第1号 2000年7月1日 P20
7. 比嘉照夫ほか：EM蘇生海塩の驚異。総合ユニコム。
8. 石原結實：「塩」をしっかりと摂れば病気は治る。経済界。

ブラッシングの自律神経系への影響

藤巻 弘太郎 D.D.S., Ph.D., 藤巻 五朗 D.D.S., Ph.D., Cert. ORT-DDS (3 Dan)
パストラル歯科、東京

【緒言】口腔内のブラッシングは、一般的に歯面について食物残渣やプラークを除去する目的でおこなわれている。しかし、もうひとつの Oral Physiotherapy としてのブラッシングはあまり注目されていないように思われる。

【目的】「歯面」のみを磨くブラッシング(以下「歯磨き」と、歯肉や歯槽粘膜への擦過刺激を主としたブラッシングー Oral Physiotherapy の1つである長時間歯肉擦過刺激ー(以下「マッサージ・ブラッシング」)を区別して行い、それらが与える自律神経系への影響の相違を調べる。

【方法】1. ORT 生命科学研究所製作の定量濃度試料(RCS)のノルアドレナリン(別名ノルエピネフリン・NE)とアセチルコリン(Ach)を Bi-Digital O-Ring Test (Omura, Y. 1977-2007; 以下 BDORT)を用いて被験者の頭部・各臓器・症状発現部位・不定愁訴部位を測定する。
2. 「歯磨き」を約 3 分間行い、同様に測定する。
3. 「マッサージ・ブラッシング」を約 15 分間行い、同様に測定する。

【結果】「歯磨き」を約 3 分間実施した後では被験者全員での全測定部位で NE の 2~5 倍の増加と、Ach の 1/2~1/5 の減少を確認した。
一方、「マッサージ・ブラッシング」を約 15 分間実施した後では、被験者全員での全測定部位で NE の 1/2~1/10 の減少と、Ach の 2~10 倍の増加を確認した。

【考察】疾病治療のみならず心身の健康の回復安定のためには、闘争や逃避に対応する交感神経系ではなく、平常時の生命エネルギーの保存・回復・維持に働く副交感神経系が優位であることが必要である。

過去に演者等は、歯科領域での日常生活行動が自律神経系をはじめ心身に多大な影響を及ぼしていることを発表してきた^{1)~5)}。そこでは、有歯顎者・無歯顎者共に歯ブラシによる Oral Physiotherapy の 15 分間実施後は症状発現部位において有益物質である Ach は増加したが、有害物質(重金属・ウィルス・Thromboxane B2・Integrin $\alpha 5\beta 1$ など)は元の量の約 1/10 に減少し、その差し引き量が排尿後の尿中に確認されたこと、それ故に正しいブラッシングの後は排尿することが望ましいことを報告した⁵⁾。しかし、そのときは研究対象物質の中に NE が含まれていなかったために、自律神経系を対象としたとの表現ができなかった。そこで本研究では、自律神経系の交感神経作動物質である NE と副交感神経作動物質である Ach の二つの物質を用いて、ブラシの仕方の違い、すなわち、最も効果的な歯ブラシの方法としての毛先磨きをするときの、毛先の触れる場所の違いにより、実際には自律神経系にどのような影響を与えてしまうのかを調べた。

一般的に人々は、歯磨剤を付けて「歯面」のみを磨き、歯を白くしたり、食物残渣を取ったり、プラーク・コントロールをすることで「歯ブラシ」を終えている。これは、本研究でいう「歯磨き」をしたことであり、NE の増加と Ach の減少という交感神経系が優位な状態になったので、心身条件は悪化した。このことから「歯磨き」という歯だけをブラッシングする生活習慣は交感神経系を優位にさせ、種々の生活習慣病を助長させることが示唆された。

しかし、「マッサージ・ブラッシング」をすることで、NE は減少し、Ach は増加したので、副交感神経系が優位な状態になった。それは血液循環系・免疫系を正常にして、組織代謝を賦活化させ、脳内生理をも正常化していくので、生活習慣病である歯周病の治療効果だけでなく、口腔内の健全化を越え心身条件を改善させること³⁾に繋がる。

これらのことから、歯ブラシと言えども、方法の違いにより全く逆の結果となるので、心身の健全化に関して言えば、ブラッシングも大変重要な役割を担っていることになる。

現代の日本では、躁鬱や、すぐにキレル子供たちが増え、心身的にも病んでいる人、またその予備軍が大変多い。そこで、幼児から青年までの虫歯多発期であっても、歯だけをゴシゴシ磨いて終わらせるのではなく、歯頸部を中心に歯肉への擦過刺激を主としての「マッサージ・ブラッシング」を長時間実施することは、心身の健全化に働くのでは是非とも必要なことである。またそれは、中・高齢者の歯周病多発期においても同様である。

【結語】本研究から、「歯磨き」という歯だけをブラッシングすることは交感神経系を優位にさせていた。しかし、「マッサージ・ブラッシング」を行うと副交感神経系が優位になった。これらの結果から口腔内だけでなく、心身の改善・健全化にはマッサージ・ブラッシングが適切である。

【参考文献】

- 1) Fujimaki G, Adjusting to the Physiologically Normal Bite Relation Using the Bi-Digital O-Ring Test and its Effect on the Rest of the Body, *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res., The Int. J.*, Vol.28, pp 84-86, 2003.
- 2) Fujimaki G, Fujimaki K., The Effect of the rhythmic activity of mastication on brain substances, *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res., The Int. J.*, Vol.30, pp313-314, 2005.
- 3) Fujimaki G, Fujimaki K., Dental Care for Stress Relief. 7th International Symposium on the Bi-Digital O-Ring Test Program & Abstracts : pp151-153, 2006.
- 4) 藤巻五朗, 藤巻 弘太郎: 自律神経系と咬合, 全身咬合, 13:2007.(投稿中)
- 5) Fujimaki G, The Effect of Oral Daily Life Activity on the Body - Part II The Effect of Oral Physiotherapy by Tooth Brush on the Body, *Acupuncture & Electro-Therapeutic Res., The Int. J.*, Vol.27, pp 281-282, 2002.

連絡先 : パストラル歯科 〒101-0063 千代田区神田淡路町 1-19-4 2F

FAX : 03-3251-6570 <http://www.pastoral-shika.com> E-mail : kow@pastoral-shika.com

義歯などの口腔内装置の汚染について

藤巻 五朗 D.D.S., Ph.D., Cert. ORT-DDS (3 Dan), 藤巻 弘太郎 D.D.S., Ph.D.,
パストラル歯科、東京

【緒言】現代社会では建物解体工事、排気ガス、タバコ等による大気汚染は深刻であり、その中で人の体内に吸収されるアスベストや重金属が問題視されている。

【目的】義歯や顎位調整装置(以下装置)などの口腔内可撤式装置における、重金属類やアスベストの汚染について調べ、そしてその清掃・洗浄方法を検討する。

【方法】義歯や装置における汚染について、ORT 生命科学研究所製作の定量濃度試料(RCS)の水銀(Hg)、アルミニウム(Al)およびアスベスト(Asbestos)を用いて Bi-Digital O-Ring Test (Omura, Y. 1977-2007; 以下 BDORT)により、以下の3時点で調べた。

- 補綴物完成時(装着前)
- 装着後数ヶ月～数年しての検診時(清掃条件は自己申告)
 - ①常時装着している義歯
 - i 自分で清掃している義歯 a 洗浄剤使用 b 流水中でのブラシ使用のみ
 - ii ほとんど清掃されてないと思われる義歯
 - ②就寝時だけ装着して、昼間ははずして乾燥状態にある可撤式顎位調整装置
 - i 自分で清掃している装置 a 洗浄剤使用 b 流水中でのブラシ使用のみ
 - ii ほとんど清掃されてないと思われる装置
- 院内での洗浄後 ①活性酸素洗浄剤使用後 ②歯垢除去酵素剤使用後

【結果】	Hg	Al	Asbestos
1 完成時義歯・装置とも	1ag	1ag	< 0.025mg
2 ①義歯 i a 洗浄剤	1pg~100ng	1pg~100ng	< 0.025mg
2 ① i b ブラシ	100ng~4 μg	100ng~4 μg	< 0.025~0.05 mg
2 ① ii 清掃なし	200 μg	200 μg	0.2~0.3mg
2 ②装置 i a 洗浄剤	100pg~100ng	100pg~100ng	< 0.025mg
2 ② i b ブラシ	100ng~5 μg	100ng~5 μg	0.05~0.2mg
2 ② ii 清掃なし	20~100 μg	20~100 μg	0.4~1mg
3 ①活性酸素洗浄剤使用後	1/200~1/10000 に減少		1/2~< 0.025mg
3 ②歯垢除去酵素剤使用後	2/3~1/10000 に減少		2/3~< 0.025mg

(3の院内洗浄後では洗浄液への浸漬時間10分~1時間の違い、超音波洗浄器の使用の有無や洗浄後流水のみの洗いか、ブラシを使用するかで減少率に大きな差がでた。)

【考察】体内に吸収された重金属やアスベストは BDORT 協会内では大村恵昭博士の研究とご指導により中国パセリを服用して Selective Drug Uptake Enhancement Method(有効薬剤を病変部まで到達させる方法)を行わせることで、排出効果をあげている。過去に演者らは歯肉擦過刺激としてのブラッシングを長時間実施することでとか、BDORT的に咬合が生理的になっている人では咀嚼することで、重金属を含む有害物質が排泄され

ていくので、食事後やブラッシング後は排尿することが重要であることを報告してきた^{1)・2)}。

本研究ではかなりの量の Hg・Al・Asbestos の有害物質が可撤式装置に計測された。

義歯や装置などの原材料からは Hg・Al は検出できなかったが、製作物完成後の Hg・Al の汚染度は義歯や装置どちらも 1ag であった。製作工程が全く異なる義歯や装置であるにもかかわらず、製作過程で汚染されたとしか考えられないが、その理由は特定できてない。

しかし、口腔内に装着後から急速に汚染されていくようである。常時装着していても洗浄剤を使用しての清掃されてある義歯で 1pg から、就寝時だけ装着して昼間は乾燥状態にある装置でほとんど清掃されてない場合 100µg まで、また喫煙者の義歯では 200µg で共鳴するほどに汚染されていた。

このことから、喫煙時の場合は直接的に、それ以外でも呼吸や食事を通して、有害物質が口腔を通過する際、可撤式装置に付着・沈積していることが推察される。これは有害物質を装置に吸着させることで、体内に吸収されるのを防いでいるといえる。

そして、人は体内に取り込まれた有害物質を基本的には尿に排泄させているが、それだけでなく唾液を通して口腔内に流出し、装置に付着・沈積していくことが考えられる。そして、その汚染された装置に新たな唾液が触れることにより溶出して体内に再吸収され還流していることも考えられる。加えて義歯の場合、食事の際の食物や水分が触れることにより、同様なことが起る可能性もある。この一度付着・沈積した有害物質が溶出して再吸収されていくのを止めるためには、その時点できれいに洗浄する必要がある。研究の結果から、ブラシによる清掃だけでは不十分で、かなりの汚染量が検出された。そのことから義歯や装置の清掃はブラシをかけるだけではなく、もっと強力な方法をとる必要がある。

そこで洗浄剤液に約 1 時間浸漬した後、流水中でブラシを使用して洗浄剤をきれいに洗い落として、清潔にすることで 1/10000 程度の清掃状態にできた。このことから毎日繰り返し洗浄して、吸着物質を排除することができれば、義歯や装置を本来の機能回復のためだけでなく、有害物質を吸着させ排除できうる道具としても考えられることが示唆された。

【結語】義歯や顎位調整装置などの口腔内可撤式装置は重金属類やアスベストなどの有害物質により常に汚染されている。そしてその汚染程度は状況により差はあるものの、ブラシによる清掃だけではきれいになりきれないので、洗浄剤などを利用して常に清潔な状態にしての使用が必要である。

【参考文献】1) Fujimaki G, The Effect of Oral Daily Life Activity on the Body - Part □ The Effect of Oral Physiotherapy by Tooth Brush on the Body, *Acupuncture & Electro-Therapeutic. Res., The Int. J.*, Vol.27, pp 281-282, 2002.

2) Fujimaki G, Adjusting to the Physiologically Normal Bite Relation Using the Bi-Digital O-Ring Test and its Effect on the Rest of the Body, *Acupuncture & Electro-Therapeutic. Res., The Int. J.*, Vol.28, pp 84-86, 2003.

連絡先：パストラル歯科 〒101-0063 千代田区神田淡路町 1-19-4 2F

FAX：03-3251-6570 <http://www.pastoral-shika.com> E-mail：kow@pastoral-shika.com

電磁波的環境を利用した歯科治療

藤井佳朗 D.D.S. Ph.D

新神戸歯科(神戸市)

(目的) 社会の IT 化に伴い、電磁波の身体への影響が注目されるようになってきた。今回は、Bi-Digital O-Ring Test(OMURA,Y.1977-2007;以下 BDORT)を参考にして製作した歯冠修復補綴物から発する電磁波を利用した歯科治療例を報告する。

(対象) 41 歳、女性。主訴、腰痛。近在の内科医より紹介。体幹前屈、側屈、後屈時に疼痛による運動制限が著明。高脂血症のためメバロチン服用中。

(治療) 右上第一大臼歯に 24K のゴールドコアを樹立し、白金加金合金(商品名、山本貴金属製ゼオメタル 87: 金 87%、白金 11%、その他 2%) 全部鑄造冠を製作した。製作にあたり、全部鑄造冠の材質および形状の決定、咬合診査は BDORT を参考にした。

(結果) 製作した全部鑄造冠を装着前に足元に置き、前屈試験(FFD)を比較すると著明な改善が認められた。側屈、後屈も同様に改善が見られた。またこの現象は全部鑄造冠をアルミホイルで包みこみことで消失し、アルミホイルを剥がすことで再現した。本鑄造冠を合着した直後、腰痛は消失し、前後屈、側屈量も著明に増加した。以後、1 年以上再発はしていない。

(考察) 電磁波の身体への影響が注目されているが、歯科材料の電磁波的影響をうまく応用すれば、身体各所の不定愁訴などの治療に有効である可能性が示唆された。社会の IT 化に伴い、携帯電話やパソコンに代表されるようにわれわれの環境を考える上で電磁波の存在を無視することは不可能である。電磁波の身体への影響をさらに検討する必要があると思われる。

(結論) 歯科材料の選定、歯冠修復補綴物の形態の付与、隣接歯との接触強さおよび咬合状態の判定 BDORT は有効であると考えられる。

連絡先: 郵便番号 6 5 1 - 0 0 9 2

神戸市中央区生田町 1 丁目 4 - 2 4 ヨシオカビル 2F

新神戸歯科 藤井佳朗

TEL 078-262-7557 FAX 078-262-7687

e-mail: shin-kobe-dentalclinic@s9.dion.ne.jp

人類特有の免疫病の原因の神経筋肉系共鳴現象による究明 —細胞内感染症による糸粒体の荒廃の Bi-Digital O-Ring Test による検知—

西原克成 DMSc., DMD.

前東京大学医学部口腔外科教室講師、西原研究所 所長、東京
(Correspondence: FAX: 03-3479-1473, E-mail: nishihara-ken@a.email.ne.jp)

1. 最新の生命科学

人類特有のわけの解からない免疫病は、今や文明国ではごくありふれた疾患となっている。これらの疾患の発症には、日常的なモダンな生活様式と密接不可分な関連性を示している。しかしこれらの人類特有のわけの解からない免疫病が何であるかを解明するためには「生命とは何か？」を厳密に定義するとともに、哺乳動物の生命のしくみを解き明かす必要がある。そのためには脊椎動物三つの謎を究明することが肝要である。シュレーディンガーは、分子生物学の樹立を提案したが、彼は「生命」を定義することなく遺伝が生命の特徴的錠をにぎることに着目し、生物学に物理学的な還元手法を導入することを提案した。そして遺伝現象の解明のために最も単純な原核生物の細菌とそれに寄生するウィルスのバクテリオファージを用いた研究に邁進した(1960年)。脊椎動物には三つの謎がある。第一の謎は、おびただしい数の細胞から成る多臓器官を持つ個体が一粒の細胞で出来ている原生動物のごとき統一個体として統制された行動をとる「器官の相関性—キュビエの原理」の発現のメカニズムの謎(1812年)。第二はヘッケルの個体発生と系統発生との相関性のメカニズムの謎(1896年)を含むラマルクの用不用の法則すなわち進化の起こるメカニズムの謎(1809年)。第三は骨髓造血発生のメカニズム(西原 1994年)を含む免疫系のメカニズム(メチニコフ・エールリッヒ 1909)の謎である。「生命」は科学的には 21 世紀においてもまだ定義されていないので、著者が次のごとく定義した：生命とは蛋白質・核酸・澱粉・脂質等の有機物質の水溶性コロイド体で、リン脂質の膜に取り囲まれ、多種のビタミン・ミネラルを含み、エネルギー代謝の渦がめぐるとともに生命個体の一部又は全部がリモデリング(作り換わる)する組織・細胞の新生システムであり、老化(エイジング)を克服する生命システムである。エネルギー代謝にともなって起るリモデリングが生命には必須である(西原 2004)。脊椎動物のごとき高等動物は、太陽光エネルギーや地球や月の引力エネルギーの流れのもとで、消化され吸収された栄養を分解して得られるエネルギーとともにめぐる水車や風車のごとく、回転しながら動物の体内でリモデリングを続ける。このリモデリングで動物はエイジングを克服し、これによりエントロピーを減少することができる(西原 2006年)。このエネルギーの回転系は宇宙からのエネルギー(太陽光や重力エネルギー)と栄養食品からのエネルギーの両者を必要とする。高等生命体はエネルギーの受容器と質量のある物質の酸素や栄養素の受容器を持つ。前者が体壁系感覚器官で後者が内臓腸管系である。

2) 脊椎動物の生命の統一理論の樹立

多細胞生命体の統一理論は以下の所見に基づく

1. すべての生命体の細胞は同じ遺伝情報と同じ基本構造を持ちミトコンドリアのエネルギー代謝にともなう核の働きに基づいて生命活動を遂行する。
2. 各特殊化した細胞内のミトコンドリアは特殊細胞の機能のみならずその産生するサイトカインによって細胞間の連絡を行う。
3. 生命体に作用したり吸収されるすべての物理的・化学的・刺激や栄養、毒物、細菌、ウィルス、寄生体や精神的ストレスは脳脊髄と身体全域から視床を経て視床下部に

神経筋肉システムと心臓脈管システムによって伝えられる。これらの刺激はさらに脳下垂体の後葉・中葉を経て前葉に伝えられると、神経刺激はここで60兆個の細胞を直接メディウムでコントロールするホルモンに変換される。

4. アドレノコルチコトロピックホルモンがミネラルコルチコイドとグリココルチコイドの分泌をコントロールすると、生命体内に存在する800~3000粒のミトコンドリアを持つすべての細胞がホルモンによって直接制御される。

5. 細菌・マイコプラズマ・ウィルスはある条件下で様々な器官の細胞に細胞内感染症を引き起こす。細胞内に感染した細菌やウィルスはミトコンドリアと核の機能障害を引き起こす

3) 生命科学の統一理論

R・マイヤーの「質量のある物質は質量のないエネルギーと等価である」というエネルギー保存の法則に基づいて多細胞動物の脊椎動物の生命システムは以下のごとくに制御されている。

1. 体壁と内臓筋肉系とともに働く中枢神経系は膜電位のイオンチャンネルによって制御されている。

2. 重力作用への対応として起る生体力学による形態の変容は、生長発育を除いては血液リンパ脈管系と筋肉骨格硬組織流体力学系においては局所的流動電位によって制御されている。

3. 酸素、栄養、ミネラル、サイトカインやホルモンは腸管を介して心臓脈管系のメディウムにより60兆個の細胞内のおびただしい数のミトコンドリアを直接コントロールする。

4. 生体内においては、その内部に吸収された質量のある物質とないエネルギーがともに核とミトコンドリアの遺伝子の引き金を引く。これにより生命活動が行われる。

5. 60兆個の全細胞のミトコンドリアは60兆個の細胞間の相互作用を維持すべくすべての細胞の細胞膜とホルモンとサイトカインを分泌する。ヒトの個体を国にたとえると器官や組織は州や県・市や町や共同体である。そして、それぞれ800~3000の糸粒体を擁している各細胞は、一つの共同体単位の工場や大型店舗であり、糸粒体が一人一人のヒトに相当する。糸粒体が国におけるヒトに相当する。その中に存在するミトコンドリアがヒトの役割を担っている。

上述した機序ならびにミトコンドリアのサイトカインシステムに基づいて、環境変化に従った進化の変容と免疫系の発生とキュビエの原理の発現が起る。これが脊椎動物の生命科学の統一理論である。

4) Bi-Digital O-ring Test による神経筋肉系共鳴現象の原理

1. 水溶性コロイドから成る動物細胞は動く事の特徴としている。動物においては神経細胞は筋肉とともに発生する。生物では筋肉なくして神経はなく、神経なくして筋肉もない。脳脊髄は筋肉と共役して存在している。

2. 生きている細胞においてはミトコンドリアは酸化的磷酸化による電子伝達系の活動電流を発生している。

3. すべての物質は電子スピンを有しこのスピンと脳神経細胞内のミトコンドリアの電流とは共鳴現象を示す。

4. ウィルスや腸内の常在菌に細胞内感染している細胞のミトコンドリアの電子伝達系の働きは障害される。

5. 血液細胞以外の体壁系と内臓腸管系を構成するすべての器官は、神経筋肉系のみならず毛細管・自立神経系によって経絡で脳のニューロンと連繫している。ニューロンのミトコンドリアと各器官の細胞や物質との共鳴は筋肉のケイ縮の強さに反映される。